講義

H. Möllgaard 氏ノ結核化學的療法（續報）

渡邊義政

本誌第參卷第五號ニ述ベテ置タ處ノ「サノクリジン」ニ就テ其ノ後歐洲方面ニ於ケル研究ノ大勢ガドンナ風ニ進ンデ來タカト云フ事ヲ極ク簡單ニ述ベテ見ヤウト思フ。

サテ本療法ハ結核ノ化學的療法ノ上ニ新ラシキ著眼點ヲ有シ、化學的療法ニ新紀元ヲ開拓シタモノデアルト稱スル學者アレバ又一方ニハ左程效ガアルモノデハナイ恐クハ普通アリフレタ所謂結核治療劑トドレ丈異ツテ居ルカト云フ議論ガアル、ソウカト思ヘバ又タ動物實驗卽チ牛ノ結核デハ假令メルゴー氏ノ云ヘル通リノ成績ガ得ラレタトテ、ソレヲ以テ人結核モ同樣デアルト速斷スル事ハ宜敷ナイ、ソレニハ汎ク多數ノ人結核ニ實驗シタ上決定スベキモノデアルト云フ、斯ル議論ハ實際的醫學ノ上ニ尤モナ批評的言論デアル事ハ誰モ否定ハシ得ナイ、而シ一カラ十マデコンナ論法ヲ以テ攻メル事ハ餘リ酷ナ樣ニモ思ハレル。人結核ノ如キモノニ於テハ何%カノ自然的治癒ガアリ又タ治療價ヲ確定シ得ル樣ナ場合モナイデハナイガ多クノ場合ソウ易々ト的確ニ證明シナイノデアル。治癒シタ治癒シナイト云フ事ハ人ノ見樣次第デ從テ動物實驗ノ如ク正確ノモノデナイ、其所デ動物實驗ノ成績ガ良イモノナレバ人ニモマヅ良イト信ジテ人ニ試用シテ見ルノデアル、而シテ害ガナケレバ先ヅ良イトスルノデ尤モ製劑其物ノ直接的有害作用ガ現ハレナクトモ疾病ノ進行ヲ助長スルモノハ吾人ノ望ム目的デナイ事ハ勿論デアル、又タ多少ノ害ガ伴ツテ來テモ結核ノ如キ疾病ナレバ直チニ批難スル事モ出來ナイ。

日本ニ於テハ未ダ「サノクリジン」ニ就テノ實驗報告ヤ一定ノ根據アル批評ガナイ今歐洲方面デ發表セラレタ報告ヲ概括シテ見ルニ、

英國醫學調査委員會(M. R. C.)ガ其ノ豫報ヲ British Med. Journ. No. 3355 p. 735 4-18-1925 ニ發表シテ居ル。其レハコーペンハーゲンノメヨルゴー教授ノ「サノクリジン」ト免疫血清ガ到著シ且ツメヨルゴー教授ノ共同作業者タルセシル氏ガロンドンニ來リ親シク治療劑ヲ選擇ナサレ、而シテ其他一般ノ注意ヲ與ヘラレタ。英國衞生省ハ本追試驗ニ充分ナル好意的連絡ヲ取ラレタ、「サノクリジン」ノ人體使用者トシテ一般ノ開業醫ヲ避ケ Whole—Time professor Tuberculosis-officer ニ分與シ未ダ三ケ月ヲ出デザルモ、其ノ結果ヲ豫報スル事ガ今日ノ場合至當デアルト考ヘタカラ發表スルト言明シテ其ノ「サノクリジン」ノ使用法ハ水溶液一〇瓦中ニ所要(一回〇・五瓦—一・〇瓦)ノ「サノクリジン」ヲ含有スル樣ニナシ之ヲ靜脈內ニ注射ス「サノクリジン」ノ使用全量ハ五—六・〇瓦トシタノデアル。患者ニ使用シタ血清ハ馬デ製シタモノデ其ノ二〇瓦ヲ筋肉內ニ注射ス、蓋シ重症患者ニハ「サノクリジン」使用後又ハ同時ニ血清ヲ使用シタレドモ輕症患者ニハ血清ヲ使用シナイ、常ニ斯ル方法ニテ治療ヲ續行シテ居ルノデアル。

「サノクリジン」療法ニ依テ起ル副作用トシテ嘔吐食慾減退ハ多クノ場合ニ來ルガ輕症患者ニハ其ノ程度甚ダ輕イ若シ相當重症ノ患者デアツタ場合ニハ相當劇烈ノ反應ヲ呈スルノデアル。體溫ハ注射後數時間華氏一〇三乃至一〇四(C三九・九乃至四〇・〇)ニ昇ル下痢ハ比較的少ナシ二三回ノ注射後ニ於テ屢〻痲疹又ハ猩紅熱ニ類シタ發疹ヲ呈ス蛋白尿ハ最モ屢〻起ル普通ノ反應ニシテ一%ニ及ブモノアレドモ長ク持續シナイ常ニ數日ニシテ消失スルモノデアル。肺ノ病竈部ニ於ケル局所反應ハ呈シテモ甚ダシクナイ、其ノ反應ハ呼吸數頻數トナツテ脈搏多ク質弱クナル、咳嗽喀痰ハ一般ニ增加スルガ後ニハ減少スルノデアル。此レハ病竈部ニ於ケル適當ナ反應トモ考ヘテ惡イ事ガナイ。

「サノクリジン」用ノ免疫血清ヲ應用シタ結果血清病ノ起ツタ例ガアル。

「サノクリジン」療法ノ今日迄ノ成績デハ效力ヲ斷定シ得ナイガ臨牀的實驗ノ結果ハメヨルゴー氏教授等ノ記載ト大體ニ於テ一致シテ居ル樣デアル。而シ前ニ申シタ通リ三ケ月間ノ成績而モ三十例ノ實驗ヲ以テ批評スル事ハ不合理デアルカ

ラ其ノ斷定ハ最後ノ實驗ヲ終ルマデ保留シテ置キ此所ニ其ノ三十例ニ就テ少シク論述シテ見ルナラバ、實驗中ノ二十二例ハ肺結核デ其ノ中二例ハ死ンダガ其ノ死ンダ内ノ一例ハ已ニ絶望ノ危篤患者デアツテ「サノクリジン」注射ガ死ヲ早メタト云フニ過ギナイ。他ノ一例ハメヨルゴー氏ノ報告デハ稀レデアル可キ黄疸ヲ起シテ死ンダノデアル。サテ開放性結核ハ或ル程度迄明ラカニ恢復ヲ認メル事ガ出來タガ、「インシュリン」ヤ「サルバルサン」療法ニ於テ見ル如キ效果ハ望ミ得ナイ。又タ或ル程度以上進行シタ結核デハ「サノクリジン」ノ注射ニ堪ヘ難ク惡化スル事ガアル。此ノ點ナドハ明カニコーペンハーゲンニ於ケルセシル氏ノ實驗ヲ證明シタノデアル。

「サノクリジン」療法ニ對シテ本調査委員會ハ數ケ月後ニハ決定的ノ結論ヲ下シ得ルモノト信ズ、其レ迄ハ一般ニ用ヒザル可キ希望ヲ有スルト云ヘリ。

	良好	惡化	變化無	疑問	死	計
St. Barlhimena Hospital (F. R. Fraser)	0	0	1	0	0	1
London Hospital (A. W. M Ellis)	0	2	2	1	1	6
		1. meningitis				
St. Mierg's Hospital (F. Lang Mecad)	0	1	0	1	1	3
St. Thomas Hospital (H. Meclean)	1	1	1	2	0	5
Mivarstii Calle Hospital (T. R. Elliott)	1	1	0	1	1	4
	peritonitis					
Cardift (S. C Cummins)	2	0	0	1	0	3

備考

此ノ外 Edinbare Filip.p 氏ハ菌陽性無熱肺結核ニ注射シテ良イ樣デアツタト云フ

尚ホ臨牀的方面ハ次ニ述ベル樣ナ所ニ委托シテ其ノ成績ヲ收メテ居ル今日 M. R. C. ノ報告トシテ The Gold Treatment of tuberculosis ノ題目下ニ報告サレテ居ル所ハ上表ノ通リデアル。

此ノ表ガ前ニ述ベタ英國醫學調査委員會ノ二十二例ノ報告デアルガ余(渡邊)ハ此ノ表ヲ見テ餘リ思タ程ノ成績デハナイ極メテ輕症ナル「カルヂフ」ノ三例ノ實驗例ガ加ツテ來テ而シテ治療ノ結果ガ良好デアツタト云フ、其ノ率ハ一五%、若シ「カルヂフ」ノ三例ガナケレバ〇・五九%デアルトハ心强イ次第デアル。Prof. Oluf. Bang 氏ハ Ugeskrift for Laeger. May 14th 1925 ニ The action of goldsalts in Experimental Tuberculosis トシテ報告シタ要點ハ sodium aurothiosulphate sodium aurichloride ノ複鹽體ハ「サノクリジン」ト同樣ナモノデ一八四五年 Fodros Gelis 氏ニ依テ作ラレタモノデア

ル今之ヲ以テ實驗シタ。其レニハ先ヅ八頭ノ兎ヲ牛型菌ニテ感染セシメ内六頭ハ前記ノ金製劑ヲ注射シ二頭ハ對照トシタ而シテ治療ノ一頭ト對照ノ一頭ハ生命ガ延長シテ居ツタガ金劑ノ作用ハ何レモ認メル事ガ出來ナイ。其所デ第二回目ノ實驗ニ兎九頭ニハ牛型菌ノ靜脈内注射八頭ニハ同ジ菌ノ皮下注射ヲ以テ感染セシメ後チ五日目毎ニ金劑ノ靜脈内注射ヲ施シテ居ツタガ治療中ノ一頭ト對照ノ一頭トガ生命ヲ延長シタダケデ金ノ作用ハ殆ド認メル事ガ出來ナカツタ。而シテ注射中ノ一頭ガ危險ノ症狀ヲ呈シタカラメヨルゴー氏血清一瓦ヲ注射シタルニ不思議ニモ恢復シ後再ビ症狀ヲ呈シタカラ更ニ免疫血清ヲ注射シテ健康ニナツタ此所ニ於テ對照ノ一家兎ト其ノ助カリシ實驗家兎ヲ解剖シテ見タトコロドチラモ結核ヲ發生シテ居ナイ。其レ故ニ免疫血清ガ毒ヲ中和シタトハ思ハレナイ次ニ對照ヲ二頭置イテ「サノクリジン」注射ヲ四頭ニ實驗シテ見タガ其ノ結果ハ前ノ金劑ト同樣デ別段有效デハナカツタ、尤モソレハ膿汁結核菌ヲ注射シタ動物デアル。又タ試驗管内ノ成績デモバング氏ノ製シタ金劑ハ三二〇〇倍迄結核菌ノ發育ヲ防止シタガ「サノクリジン」ハ其レ程ノ作用ヲ認メナイ、又タ氏ハ結核菌ヲ一%ノ「サノクリジン」溶液中ニ入レ攝氏三十八度ニ翌日迄置イテモ尚ホ殺菌力ヲ證明シ得ナイト云フ。

此ノバング氏ノ報告ニ對シメヨルゴー氏ハ Ugeskrift for Læger. May 21th 1925 ニ公表シテ曰ク試驗管内ニ於テ菌ヲ殺サナクトモ化學療法上何等差支ヘナイデハナイカ、例令バ「アトキシール」ヤ「サルバルサン」、「バイエル」二〇三デモ試驗管内デハ殺菌力ヲ證明シナイガ動物體内デハ證明サレテ居ル又タバング氏ノ實驗材料トシタ膿汁菌デハ培養菌ニ比較シ其ノ分量ト數ガ正シクナイ許リカ雜菌ガ混合シテ居タカモ知レナイ。Sodium aurothiosulfate ノ preparat ハ「サノクリジン」ト全ク同一ノモノトハ云ヒ難イ其レデアルカラ其ノ實驗成績ガ假令陰性デアツテモ「サノクリジン」ノ效力ヲ疑フ可キモノデハナイ、又タ六頭ノ家兎ニ「サノクリジン」ヲ實驗シテ見テ效力ヲ證明シナイト雖モ動物實驗ト人トハ同一デハナカラウバング氏ハ家兎ニ對スル實驗デハナイカ人ニ對スル考ハソンナモノデハナカラウト笑殺シテ居ル。斯樣ニ論爭サレテ居ルガ何レガ正シイカト云フ事ハ讀者ノ御判斷ニ任セルガ至當ト考ヘタカラ此ノ問題ハ此ノ位ナ處デ止メテ置ク。

次ニメヨルゴー氏ノ初メ申シテ居ツタ「サノクリジン」ノ相當高キ稀釋度ニ於テ結核菌ヲ殺スト云フ考ヤ試驗管内ノ現象ハ多少變更シテ來タ樣デアル。尤モ其レハ次ニ述ベル Th. Madsen 氏ノ實驗ニ於テ菌株ノ相違ガ明カニ發育防止現象ノ上ニ變化ヲ示シタノデアル。

マドセン氏ノ發表シタ如ク菌株ノ差ニ於テ發育妨止現象ニ差ヲ生ジタ事ガ又タ一面ニ「サノクリジン」ノ作用ニ差異ヲ示スナレバ本金劑ハ適合スル結核菌株ニ對シテヨリ良キ結果ヲ收ムルト共ニ一方デハ反對ニ作用受ケ難キ菌株モアリ得可キ事ト考フル故本金劑改良ノ餘地甚ダ多キモノデアル其ノマドセン氏ノ報告ハ、先ヅ結核菌ニ對スル「サノクリジン」ノ殺菌力ヲ試驗スルニ Dreyer ノ人型株「ホモゲーチ」培養ヲ以テナシタルニ次ノ如キ成績ヲ得タノデアル。

菌ノ死スル時間	作用濃度
二十四時間	一・三三
四十八時間	一・四〇〇
九十六時間	一・一〇〇〇
百九十二時間	一・四〇〇〇

此レデ見ルト結核菌ニ對スル殺菌力ノ甚ダ弱イ事ガ知レタノデアル。ソコデ發育防止現象ヲ試ミルニ當リ此ノ Dreyer 菌株ガ抗抵强キモノニアラザルカト考ヘ他ニ數株菌ト比較研究ヲナシタ。

又タ發育防止力ヤ殺菌力ガ「メヂウム」ニ依テ異ナルモノデアル事ハ菌株ト共ニ次ノ表デホス通リデアル。

ペトロフ氏培養基ヲ以テナシタル試驗

菌株		發育防止濃度
人型	Dreyer	一・二五
牛型	Cattle	一・四〇〇
人型	Parrof	一・五〇〇
	Ehrlich	一・一〇〇〇
	Sputum	一・一〇〇〇〇〇

「グリセリン」肉汁培養基ヲ以テナシタル試驗

菌株		With「ペプトン」ヲ使用シタ培養基ニ於ケル發育防止濃度	Without「ペプトン」ヲ使用シタ培養基ニ於ケル發育防止濃度
人型	Parrof2.	一・四〇〇〇	一・一六〇〇〇
牛型	Cattle	一・四〇〇〇	一・一六〇〇〇
人型	Ehrlich	一・四〇〇〇	一・三二〇〇〇

コンナ工合ニマドセン氏ノ報告ハ培養基ノ「メヂウム」ノ異ナルニ從テ甚シイ差ガアリ或ル種ノ培養基デハ菌株ノ差ニ依

リテ實ニ甚ダシイ相違ガ現ハレテ居ル。其レ故ニ二三ノ復試者ガメヨルゴー教授ノ云ヘル如キ試驗管内現象ヲ認メナカツタト云フ事ハ實ニ當然デ兩者ノ實驗ガ共ニ眞實デアリ眞面目デアル事ハ蔭ナガラ物語テ居ル。

メヨルゴー氏等ノ報告アツテ後牛ニ就テノ實驗ガ未ダ公表サレテ居ナイ樣デアル。結核ノ實驗的治療ガ動物體デハドウモ思ハ敷ナイカラ人體ヲ應用シテ見ル方ガ正シイト云フ考ヘガ知ラズ〳〵多數ノ研究者ノ心ニ起テ來タノデアル其人體ニ試ミタ例ハメヨルゴー教授ト共同作業シタ人々並ニ前ニ述ベタ英國ノ委員會以外ニモ相當アル樣デ漸次其ノ報告ガ發表サレテ來タノデアル。例之バ J. Löffler 氏ハ Svenska national foreningens mot. Tuberculos pvartalsskrift jg 19 113/4 s. 35-40 1924 ニ於テ「サノクリジン」ヲ人體ニ用ヒテ良キ結果ヲ得テモメヨルゴー教授等ノ動物實驗程ニハユカナイ其ノ故ハ「サノクリジン」ハ甚ダ有毒デアリ人間ニ治療ヲ施ス時屢〻甚ダ重症ナル腎臓炎及中毒性皮炎ヲ來シ尚ホ一層甚ダシキ時ハ注射ニ依テ死ヲ來ス事ガアルト云フ、斯ル重症ノ副作用ハ使用分量ガ餘リニ多過ギタノデハナイカト思ハレル。近來注射分量ガ漸次改メラレテ來テ體重一瓩ニ就キ一乃至二瓲ト云フ樣ナ大量ハ勿論初回注射量トシテ當初少量ト思ハレテ居ツタ、大人ニ〇・五瓦モマダ〳〵大量デアラウカラ尚ホ一層微量ヲ使用スル傾向トナツテ來タ事ハ次ニ述ベル通リデアル。

何故ニ大量ヲ用ヒテ惡イカト云フニ其レニハ前ニ述ベタ中毒ヲ起スカラデアル。又タ中毒死ニ就テ Sylvest Izmar 氏ハ Ugeskrift for Læger jg 87 No. 3 s. 53-54 ニ於テ中毒ニ依ル「ショック」狀態ハ毛細管ノ擴張、其ノ壁ガ過敏デアル事ニ基ク斯樣ナ局所的ノモノハ吾人ガ凡テノ炎症ニ見出シ「ショック」ニ於テハ各臓器ニ之ヲ見出スノデアル。其ノ變化ニ因テ一部ハ其ノ擴張シタル毛細管内ノ血液ノ部分的運行障碍ガ表ハレ一部ハ又タ漿液ノ滲出血液ノ鬱滯ヲ來ス從テ脈ハ速カニ且ツ軟トナリ、遂ニハ全ク末梢動脈ニ於テ消失シ血壓下降ス體溫ハ下リ呼吸ハ甚ダ速カニ可ナリ淺表トナル屢〻呼吸器ノ麻痹ヲ起シテ斃ル斯ル症狀ハ屢〻急劇ニ來ルモノデアル。メヨルゴー氏ハ斯ル中毒性心筋炎ノ原因ヲ「サノクリジン」注射ニ因ル「ツベルクリンショック」死ト稱シテ居ルケレドモ「サノクリジン」療法デ「ショック」死ヲ起シタル動物及ビ人ハ常ニ中毒性心筋炎ヲ起シテ居ルノデアル。

結核動物ニ「ツベルクリン」ヲ注射シテ常ニ中毒性心筋炎ヲ起シ得ルヤハ是レ亦タ讀者ノ御判斷ニ委ス。

何レニモセヨ「サノクリジン」療法ハ患者ニ不安ト危險トヲ與ヘルモノデアルカラ使用分量ヲ減ジテ此ノ不安ヲ除キ得ルヤ否ヤハ充分ノ研究ニ期待シナケレバナラナイ。

I. Graversen 氏 (Tubercle march 1925 vol 6 No. 6 p 265) ハ Vejlefjord「サナトリューム」ニ於テ一九二四年四月末ヨリ一九二五年一月初メニ至ル期間中ニ於テ六一例ノ肺結核患者ニ「サノクリジン」ヲ注射シツヽアルガ內四四例ハ治療ヲ終ツタカラ其レニ就テ看察ヲ下スニ注射後中毒症狀ヲ起スコトハメヨルゴー氏ノ「サノクリジン」ニ依ル菌崩壞ノ爲メ體內毒遊離ノ他尙ホ「サノクリジン」其ノ物ノ直接ノ中毒作用ニ歸ス可キモノデアル。殊ニ凡テノ場合注射後ニ起ル蛋白尿重キ消化障碍口腔內金屬味皮疹等ヲ呈スルニ於テハ斯ク信ズル。

又タ毒素ヲ中和スル爲メニ使用スル彼ノ免疫血淸ハ常例デハナイガ一時良キ樣ナ場合ガアル。而シ血淸ニ依ル副作用ガ現ハレル尙ホ多クノ場合過敏、下痢、體重減少、發疹、病竈反應ガ反テ高マリシ事ヲ認メタ。

亦タ氏ハ治療ヲ施ス患者ニ就テ治療的ニ免疫知識ヲ以テ充分考察スル事ガ結果ノ上ニ大ナル影響ヲ與ヘルノデアルト云ヒ、滲出性、乾性、混合性、殊ニ滲出性ノモノガ他ニ比較シ良キ結果ヲ示シ、「カヘキシー」ノ患者ハ本療法ノ目的ニ適當シナイ事ハ明白デアル。

滲出性デ病竈ガ比較的新ラシク卽チ病狀經過長カラザル例ハ本療法ノ目的ニ最モ適合ス。其レハ金劑ガ容易ニ結核菌ニ働キ得ルノデアルカラ。

大ナル空洞ヲ形成シタ患者ハ解剖上是レハ一ノ治癒型ト見做スモノデ、「サノクリジン」療法ヲ若クハ人工氣胸術ト共ニ試ミテ可ナリ。

次ニ重症ナル結核患者ノ場合、「サノクリジン」ノ微量卽チ大人ニ〇・一二五瓦ヲ用ユルト害ナク注射サレ得ルノデアル。而シテ二日乃至七日間ニ注射ヲ繰リ返シ漸次分量ヲ增スノデアルガ假令分量ヲ增量シ得ル場合デモ〇・五乃至〇・七瓦ヲ限度トシナケレバナラナイト云ヒ注射スル「サノクリジン」ハ二五乃至一〇〇%ノ溶液トスルガ良イ、又タ人ニ對シ治療

的ニ無害ニ用ヒラレル分量ハ體重一瓩ニ就キ〇・〇二瓦卽チ大人ニ一・〇乃至一・五瓦デアルト雖モ、今日ハ斯ル大量ヲ欲シナイ樣ニナツタガ次ニ述バル實驗ハ此ノ分量ヲ使用シタノデアル。注射ノ間隔ハ二乃至六日以上ヲ要シ若シ前記ノ最大分量ヲ使用シタ場合ニハ常ニ少ナクトモ四乃至六日ノ間隔ガ必要デアル。所謂「ツベルクリンショック」ト云フモノハ體溫ノ急ニ下降ヲ表示シテ來ルカラ、免疫血淸又タ「カフェイン」ヲ與ヘル事ニ依テ恢復スルノデアル。

又タ强キ一般反應トシテ熱、發疹、食慾減退、過敏、下痢、蛋白尿ハ普通數日間ニシテ消失シ得ルモ二三ノ場合ニアツテハ長ク持續シタ事モアル。其他關節障碍ヲ伴フ事モアツタガ病竈反應ハ「サノクリジン」療法ノ重キ併發症ト考ヘルガ至當デアル。

氏ノ實驗シタ治療的效果ニ就テ四十四例中ノ二十二例ハ良キ結果ヲ收メ、

其ノ內

三例　治癒

七例　望ミアル

一二例　甚ダ良

他ノ二十二例ハ、

其ノ內

一一例　變化ガ無イ（內三例ハ治療後死亡）

一一例　惡キ結果（內三例死亡）

次ニ氏ハ進行シタ結核患者ニ本劑ノ治療的作用ヲ認メタ事ノナイ點カラ之ヲ使用スル事ノ甚ダ不合理デアツタ事ヲ明言サレテ居ル。

氏ノ實驗サレタ成績ハ甚ダ良好デアル。而シテ其使用サレタ分量ハ概シテ云ハヾセシル氏等ノ初メノ報告通リニ比較的大量ヲ使用サレタノデアルガ、其ノ割合ニ惡キ結果ガ少ナカツタト云フ事ハ患者ノ選擇ト其ノ他ノ注意ガ適當デアツタ故デモアラウガ、誰デモ斯ル分量ヲ常ニ使用スル事ハ前ニモ申シタ通リ治療分量ノ漸次改良サレテ來タ今日、危險ナク

常ニ用ヒラレルモノカ否カヲ疑ハザルヲ得ナイ。Möllgaard 氏等ト共同者ノ一人 G. E. Permin 氏ハ Acta Tuberculosea Scandina Vica Extract de Vol. 1. F. 2. ニ報告シタ事ハ、大人ニ「サノクリジン」〇・五乃至一・〇ヲ使用シテ見タ所ロ斯ル分量ハ體重ヲ減ジ屢〻思ハシクナイ成績ヲ生ズルノデ、其ノ分量ヲ漸次減少シテ遂ニ十九歳ノ女子ニ〇・一瓦ヨリ始メ〇・七瓦ニ至ル卽チ十週間ニ全量四・九瓦ヲ注射シタ處、體重減少セズ甚ダ良好ナル經過ヲ取ッタノデアルト云ヘリ。

又 Kund Faber 氏ハ Acta Tuberculosea Scandina Vica Extract de Vol. 1. F. 2. ニ於テコーペンハーゲンリグス病院ニ於テ三十六例ノ治療實驗ヲ報告シテ居ル。ソレハ一九二四年九月ヨリ一九二五年三月末迄ノ實驗デアッテ、內十二例ハ治療日淺クシテ結果ヲ知ル事ガ出來ナイガ患者ハ何レモ慢性結核症デアッテ、三十六例中ニテ重症デ死ンダ者ガ三例本療法ノ結果死ンダ者二例二三回注射後本療法ヲ中止シタ者二例肺症狀ナキモノ一例ヲ除キ、完全ニ治療ヲ終ッタ者十六例アルカラコレニ依テ其效果ガ判然サレルト云ヘリ。卽チ、

十六例中

六例　喀痰止ム臨牀上完全治癒（X光線像ニ於テモ）

一例　喀痰止ム臨牀上殆ド治癒（X光線像全ク治癒）

四例　聽診上輕微ノ症狀ヲ殘スノミ他ノ症狀全ク去ル體重增加

五例　良好ナル如キモ確定シ得ズ

本治療成績ニ依ルト滲出性ノミナラズ纖維性デモ良好ナル成績ヲ得タ、就中結核菌ハ殆ド全部消失シ萬一消失セズトモ是迄他ノ療法デ見ザル作用ガアルト云フ。

又タ「サノクリジン」注射ニ依ル反應ハ遊離結核毒素ニ依ル「ツベルクリン」反應ナレドモ、病變ノ廣狹ニ關與セズシテ病機轉ノ新舊ニ依リ差アルナリ。患者ニ大量（每瓩〇・〇二瓦）〇・五瓦ヲ與フル事ハ決シテ副作用ナク行ハレルモノニ非ズ、故ニ分量ヲ減ジ體重ノ減少食慾ノ減退等ヲ考慮シ用ヒタ結果X光線像ニ於テ示ス如ク良好ナル結核ヲ得タノデアルト云ヘリ（X光線寫眞此所ニ省略ス渡邊）。

血淸ハ今日迄「サノクリジン」注射前又タ同時或ハ後ニ注射シテ見タ實驗成績ニ依レバ左程效果ノアルモノニ非ラズ。「サ

ノクリジン」注射ニ依テ起ル蛋白尿ヲ防止又タ輕減スル事ハ疑ハシイ。血清注射ニ依テ反應ガ反テ增進シ蛋白尿ガ增惡スル事ガアル。「サノクリジン」ノ注射分量ヲ微量トシテ用ヒルナレバ本免疫血清ノ必要更ニナキモノデアル。氏ハ尙ホ臨牀家トシテ特殊療法ヲ施スニハ凡テノ點ニ於テ大ニ注意サレテ居ル。而シ本療法ノ成績ニ就キテ判然ト決定的意見ヲ述ベテハ居ラナイ。

又タ H. Aldershof en p. J. L. de ploeme 氏(Nederl. Tydshr. v. geneesk. 1925 Jg. 11 69 No 7 p. 9. ニ於テ「サノクリジン」療法ニ際シ現ハレル蛋白尿ハ金中毒又ハ血清障碍トシテ認メラレルノデアル 其レ故ニ免疫血清モ如何ニ適當ニ用ヒタカラトテ效力アルモノデナイ尙ホ「サノクリジン」注射ニ依テ肺結核ガ良クナルト云フ事ハ極メテ稀レノ例デアッテ「サノクリジン」ノ效力ハ認メラレナイト云ヘリ。

以上論述シテ來タ事ハ首上ニ申シタ通リ歐洲方面ノ文獻カラ引用シタノデアル。最近デンマーク方面ノ樣子ヲ耳ニシタソレハ「サノクリジン」療法ガ始メ期待シテ居タ樣ナ效果ガナク一ノ刺戟療法ニ過ギナイトノ事デアル。

社會醫學及統計

○大正十四年度結核療養所經常費豫算調

東京市立結核療養所	四四八、二二〇圓
京都市立結核療養所	九五、一三〇
大阪市立結核療養所	二二〇、六二四
横濱市立結核療養所	六二、八五六
神戸市立結核療養所	六、五〇〇
名古屋市立結核療養所	七二、五四〇
長崎市立結核療養所	三三、四八二
新潟市立結核療養所	四六、五一三
函館市立結核療養所	四二、三八二
計	一、〇二八、二四七

○設置命令都市結核療養所經過狀況一覽表

都市	命令年月日	設立期限	位置認可	設計收容人員認可	開所年月日
東京	大正四年七月十九日	大正六年三月三十日			大正九年六月五日
京都	大正六年四月十六日	大正七年三月三十一日			大正九年三月二十二日

○大正十四年度道府縣結核豫防協會其他斯種團體ニ於ケル結核豫防施設豫定計畫

大阪	大正四年七月十九日	大正六年三月三十一日			大正六年九月二十日
横濱	大正六年四月十六日	大正七年三月三十一日			大正九年十一月一日
神戸	大正四年七月十九日	大正六年三月三十一日			大正七年十月七日
長崎	大正八年十一月二十二日	大正九年十月三十一日			大正十年三月六日
名古屋	大正六年四月十六日	大正七年三月三十一日			大正十一年四月一日
新潟	大正十年七月十三日	大正十一年六月三十日	大正十一年三月三十一日	大正十二年五月一日	大正十三年二月二十五日
函館	大正九年七月二十日	大正十年六月三十日	大正十二年五月二十九日	大正十二年八月九日	大正十四年七月十五日
靜岡	大正十年七月十三日	大正十一年六月三十日	大正十三年四月十九日	大正十四年五月二十一日	
岐阜	大正十年七月十三日	大正十一年六月三十日	大正十二年十月十一日	未濟	
岡山	大正十年七月十三日	大正十一年六月三十日	大正十一年十一月八日	大正十三年四月二十一日	
廣島	大正八年十一月二十日	大正九年十月三十一日	大正九年三月十日	其後位置及設計變更	
金澤	大正十一年十月十二日	大正十二年九月三十日	大正十三年四月二十一日	大正十四年四月二十二日	
札幌	大正十一年十二月八日	大正十二年十月三十日	大正十二年五月十八日	未濟	
宇都宮	大正十二年三月十四日	大正十三年三月十五日	未濟	未濟	
福岡	大正十二年八月十六日	大正十三年八月十五日	大正十三年二月四日	大正十四年八月十八日	

道府縣名	團體名	早期診斷所	相談所	消毒	患者ノ治療 療養所	患者ノ治療 依託治療	患者ノ治療 巡廻診療班	林間臨海學校等	患者ノ調査	豫防宣傳	其他
北海道	札幌結核豫防協會外十七協會			勵行（現存消毒所札幌、小樽、函館ノ三ケ所）						豫防「デー」ノ開催	
東京	日本結核豫防協會									印刷物發行其他	
	白十字會	經營			經營			林間學校開設		講演會ノ開催	
	恩賜會										患者ノ慰問（金錢贈與）
京都	京都府結核豫防協會		ナ	シ							
大阪	大阪府結核豫防協會	開設（細民部落巡回）	開設					夏期學校開設		印刷物ノ刊行、講演會、展覽會ノ開催	
神奈川	神奈川縣結核豫防協會		ナ	シ							
兵庫	兵庫縣結核豫防協會	開設		勵行						活動寫眞會、講演會ノ開催、「ポスター」ノ配布	
新潟	日本赤十字社新潟支部	開設				開業醫ニ對シ依託		夏期保養所ノ開設		展覽會、活動寫眞會ノ開催、「ポスター」ノ配布	僻陬地部落民ノ救護
	新潟縣衞生會			現存消毒班ノ活動						展覽會、活動寫眞會ノ開催	
埼玉	埼玉縣衞生協會									活動寫眞會、講演會ノ開催	
	日本赤十字社埼玉支部	十一ケ所開設									
群馬	日本赤十字社群馬支部					患者ノ診療ヲナス				印刷物配布、講話會、展覽會、活動寫眞會ノ開催	
茨城	茨城縣結核豫防協會		ナ	シ							
栃木	栃木縣結核豫防協會			市町村ニ對シ所要機具購入費ノ三分ノ一ヲ與ヘ				林間、臨海學校ノ開設（日本赤十字）		「ポスター」配布、講演會、活動寫眞會ノ開催	

三重	三重縣結核豫防協會	既存無料早期診斷所ノ利用督勵	無料相談所ノ新設	四日市ニ消毒所開設				之ガ設置ヲ奬勵ス
愛知	愛知縣結核豫防協會		開設	消毒所開設				
靜岡	靜岡縣結核豫防協會			消毒機ノ增設				
山梨	山梨縣結核豫防協會	ナ	シ					
滋賀	滋賀縣結核豫防協會							
岐阜	岐阜縣結核豫防協會		ナ	シ				
長野	長野縣結核豫防協會	十七ケ所ノ既設早期診斷所ノ利用督勵		三十二ケ所ノ既設消毒所ノ利用督勵				
宮城	仙臺市結核豫防會			患家ノ消毒勵行（巡回看護婦ヲシテ）				
	私立衛生會							
青森	青森縣結核豫防會			弘前市ニ消毒所開設				
山形	山形縣結核豫防會			衛生組合トノ共同消毒所ノ設置患家又ハ死者アリタル家ノ實費又ハ無料消毒			施行	
秋田	秋田縣結核豫防協會		ナ	シ				
福井	福井縣結核豫防會							
石川	石川縣結核豫防會			貧困患者ニ對スル消毒藥品無料配布				

三重	活動寫眞會ノ開催「ポスター」配布							
愛知	講演會活動寫眞會ノ開催							
靜岡	活動寫眞會、講話會開催「ポスター」配布							
山梨								
滋賀	活動寫眞會、講演會ノ開催							
岐阜								
長野	活動寫眞會、講話會模型品展覽會ノ開催「ポスター」一萬枚配布	貧困患者ニ對スル食費ノ補給						
宮城	活動寫眞會、展覽會、通俗講演會ノ開催印刷物ノ配布							
	活動寫眞會、講演會ノ開催「パンフレット」ノ配布							
青森	活動寫眞會ノ開催							
山形	活動寫眞會講話會ノ開催「ポスター」配布							
秋田								
福井	活動寫眞ノ開催							
石川	印刷物ノ配布							

富山	大日本私立衛生會富山支部						活動寫眞會ノ開催
鳥取	鳥取縣結核豫防會	鳥取市及米子町ニ開設	鳥取市米子町米子町ニ開設	鳥取市米子町ニ開設（消毒所）		「ポスター」圖案及標語ノ懸賞募集、活動寫眞會、講演會ノ開催	
廣島	廣島縣結核豫防協會	經營	經營	無料消毒ノ勵行、消毒藥ノ無料配布、消毒所ノ設置		臨海保養所ノ開設	活動寫眞會、講演會、講習會ノ開催、浪花節ノ開演
	日本赤十字社廣島支部				經營		
山口	山口縣結核豫防會			消毒機關ノ充實			講演會、活動寫眞會ノ開催
和歌山	和歌山市結核豫防會		ナシ				
德島	德島縣結核豫防會			消毒所設置			
香川	香川縣結核豫防會						講演會活動寫眞會ノ開催
愛媛	愛媛縣結核豫防協會			既設十七ケ所ノ消毒所ヲシテ患家ノ無料消毒ヲ爲サシム			活動寫眞班ノ增置
高知	高知縣結核豫防協會			三ケ所ノ設置（消毒所）			
	日本赤十字社高知支部	五ケ所設置			公務奉職者タルノ患者ノ無料治療		
福岡	福岡縣結核豫防協會	設置					講演會活動寫眞會ノ開催「ポスター」ノ配布
佐賀	日本赤十字社佐賀支部	設置					
熊本	熊本縣結核豫防協會	二ケ所設置					活動寫眞會、講演會、展覽會ノ開催、浪花節ノ開催
宮崎	宮崎縣結核豫防協會	各郡ニ設置					

○大正十四年度道府縣結核豫防施設豫定計畫

道府縣	健康診斷	早期診斷	消毒	豫防施設ノ勵行	不良建物ノ取締	患者調査	豫防宣傳	豫防協會設置	豫防協會等ノ活動促進	其他
北海道	約五萬人ニ對シ施行	早期診斷所開設	消毒所設置督勵				豫防デー開催	設置		
東京	警察取締ニ屬スル業態者ニ對シ施行但東京市內ニ限ル		患家及死者アリタル家ノ消毒勵行				健康診斷ノ際受診者ニ對シ講演ヲ爲ス			
京都	四萬七千人ニ對シ施行									
大阪	特種地域住民ニ對シ施行			技術員ヲ派シテ視察督勵セシム			豫防宣傳部新設			
神奈川	特種業態者ニ對シ施行		縣立消毒所從事職員配置							豫防協會ニ對シ二千圓ヲ補助ス
兵庫	接客業者ニ對シ施行						講話會活動寫眞會ノ開催			
長崎	同上						「パンフレット」ノ印刷配布			醫師會ト協商患者ノ無料治療又ハ半減料
新潟	一萬九千五百餘人ニ對シ施行		赤十字社支部ト協商新潟、高田長岡三市ニ開設				講演會開催「パンフレット」二千部印刷配布			
鹿兒島	鹿兒島縣結核豫防協會		消毒班ノ設置				活動寫眞會、巡回講演會ノ開催			消毒班ノ事務打合會ノ開催
沖縄	沖縄縣結核豫防協會		ナシ				ナシ			

埼玉	施行													講演會ノ開催	
群馬	四萬二千九百餘人ニ對シ施行														
千葉	施行														
茨城	施行														
栃木	特種業態者ニ對シ施行	早期診斷所及相談所ノ開設（豫防協會ト協力シテ）	患家ノ消毒勵行												
奈良		ナ		シ											
三重	施行													講演會ノ開催、「ポスター、パンフレット」ノ印刷配布	
愛知	施行														
静岡	施行														
山梨	施行														
滋賀	施行														
岐阜	施行														
長野	七萬八千人ニ對シ施行														
宮城	施行													通俗衛生講話會、活動寫眞會、衛生展覽會ノ開催「ポスター、パンフレット」ノ印刷配付	衛生講話會ノ開催印刷物ノ配付
福島															設置ニ努力

岩手	施行	早期診斷治療奬勵	公設消毒所ノ設置										活動寫眞會ノ開催、パンフレット」ノ印刷配付	
青森	施行													
山形	施行		患家又ハ死者アリタル家ノ無料消毒勵行	要取締場所ニ於ケル狀況ノ實地調査									衛生活動寫眞會、講話會ノ開催	
秋田	施行												活動寫眞會講演會展覽會ノ開催	
福井	施行													
石川			縣立無料消毒所ノ利用奬勵市町村立消毒所ノ設置奬勵（縣ハ之ニ對シ補助ヲナス）											
富山			富山高岡兩市ノ傳染病院附屬消毒所ノ開放	喀痰採取							患者ノ分布狀態調査		「宣傳週間」又ハ「宣傳デー」ノ開催	
鳥取	施行又ハ保健組合等ニ於ケル指定醫師ニ依ル自衛健康診斷ノ奬勵												衛生展覽會講演會、活動寫眞會ノ開催	
島根	施行					勵行	勵行							
岡山	施行													設置
廣島	三萬三千人ニ對シ施行												講演會ノ開催	
山口	施行		患家又ハ死者アリタル家ノ消毒勵行										講演會活動寫眞會ノ開催	
和歌山	縣設早期診斷所ノ設置（一市七郡ノ醫師會事務所充當）												「ポスター」「パンフレット」ノ印刷配布、活動寫眞會、展覽會ノ開催	設置

岩手														
青森														
山形														
秋田														
福井														
石川													結核豫防協會ニ對スル補助金ノ交付	
富山														
鳥取														
島根													健康診斷從事助手一名ノ新設	
岡山														
廣島														
山口														
和歌山														

德島	ナシ											
香川	施行		勵行		勵行	結核蔓延原因ノ調査					活動	
愛媛											促進	
高知	施行											
福岡	施行							講話會展覽會活動寫眞會ノ開催「ポスター」ノ印刷配布				
大分	施行							活動寫眞會ノ開催「ポスター」ノ印刷配布	設置			
佐賀	施行											結核豫防協會ニ對スル補助金ノ交付
熊本	施行							「ポスター」ノ印刷配布、活動寫眞會講演會展覽會ノ開催				
宮崎	施行							展覽會、活動寫眞會、講演會ノ開催、「ポスター」ノ印刷配布				
鹿兒島	施行						出稼歸來職工ノ結核調査	活動寫眞會巡回講演會ノ開催				
沖縄	施行											巡回診療指導班ノ組成

○結核療養所收容患者延人員調（大正十四年三月調）

○大正十三年中結核健康診斷成績

名稱	療養ノ途ナキ者	知事ノ豫防上必要ト認ムル者	委託患者	計	大正十三年十二月末現在患者
京都市療養所	三六、二三〇二	二三四	—	三六、四三七	一〇二
神戸市療養所	三〇、二九九	—	—	三〇、二九九	七九
横濱市療養所	二七、二〇八	二二八	—	二七、四三六	九一
東京市療養所	二四八、五四四	三四四	—	二四八、八八八	七二四
名古屋市療養所	三二、四七五	—	—	三二、四七五	九六
大阪市療養所	一〇七、六五八	—	—	一〇七、六五八	二九八
長崎市療養所	一三、五〇五	—	—	一三、五〇五	三三
新潟市療養所	五、二九一	二〇二	—	五、四九三	三二
計 八	五〇一、一八二	一、〇〇八	—	五〇二、一九一	一、四五五

道府縣	健康診斷ヲ受ケタル人員	患者ト決定セラレタル人員	受檢者ニ對スル患者千分率	從業禁止ヲ命ゼラレタル人員	備考
北海道	三二、九六一	一一	〇・三三	五	
東京	二八、四二七	二六	〇・九一	一〇	
京都	四二、二三六	一五	〇・三六	—	
大阪	一〇二、七六八	四八	〇・四七	—	
神奈川	四二、四一五	七	〇・一七	—	
兵庫	四、七六〇	一	〇・二一	—	
長崎	三〇、九〇一	四三一	一三・九五	一八	
新潟	二〇、四七四	二三	一・一二	一四	
埼玉	五六、七六九	三	〇・〇五	三	
群馬	七、三一七	—	—	—	
千葉	四四、九八八	四	〇・〇八	一	
茨城	四八、四九六	五	〇・一〇	五	
栃木	一三、九二二	二	〇・一四	—	
奈良	一五、七四一	三	〇・一九	—	
三重	九、一七三	四	〇・四四	四	
愛知	三七、〇九五	二五	〇・六七	—	
靜岡	二六、八一八	四	〇・一四	一	
山梨	一九、八一二	六八	三・四三	六	
滋賀	一七、九八七	二四	一・三三	—	
岐阜	二五、五七二	八四	三・二八	—	

長野	七七、六九六	六五	〇・八四	二	
宮城	九、一二九	八	〇・八八	四	
福島	四、三三五	二	〇・四六	二	
岩手	一二、五一四	—	—	—	
青森	一八、五三八	—	—	—	
山形	二〇、三五〇	—	—	—	
秋田	二三、九四二	二三	〇・九六	—	
福井	二〇、七四〇	五	〇・二四	三	
石川	五四、六四〇	—	—	—	
富山	四〇	—	—	—	
鳥取	三、九二五	一	〇・二五	一	
島根	一三、三一九	八	〇・六〇	三	
岡山	二九、七一〇	一六	〇・五四	一六	
廣島	一四、三二七	六	〇・四二	一	
山口	一一、二二四	三五	三・一二	一九	
和歌山	一七、四〇二	二	〇・一一	—	
德島	一二、五五七	一	〇・〇八	—	
香川	三、四一一	—	—	—	
愛媛	六、八四九	—	—	—	
高知	一、九三六	—	—	—	
福岡	六七、七三九	二一	〇・三一	一	
大分	一五、五五五	三	〇・一九	—	
佐賀	二三、〇七〇	四	〇・一七	四	
熊本	三八、五六九	三四	〇・八八	一	
宮崎	一四、二九三	一	〇・〇六	—	
鹿兒島	一五、五九〇	一九	一・二二	—	
沖縄	六、三七五	一	〇・一六	—	
合計	一、一六六、四〇七	一、〇四三	〇・八九	一二四	

右數項ハ內務省衞生豫防課ノ御好意ニヨリテ掲載スル事ヲ得タリ玆ニ謹ンデ謝意ヲ表ス。

抄録

外國文獻

結核專門雜誌

The American Review of Tuberculosis Vol XII. No. I. 1925.

○腸結核ノ諸症候ニ就テ

R. J. Erickson.

肺結核ヲ合併セル腸結核患者百例ト其ノ對照陰性例四十例ニ就テ觀察シ次ノ如キ結果ヲ得タリ。

(一)陽性例ノ五十九%ハ其ノ合併症ハ第二年ノ終リニ八十一%ハ第三年ノ終期ニ起リ發病ノ最大ナル時期ハ肺結核罹患後八ケ月乃至ハ十二ケ月迄ノ時期ナリキ。

(二)早期腹部症狀トシテハ五十八%ニ認メラレ、普通慢性便祕及ビ消化障碍ナリ。

(三)腸結核發病ノ不明ナル者ハ其ノ1/3明瞭ナリシ者ハ其ノ2/3ナリ。陰性例ニ於テハ同症候ヲ呈セルモ、著明ナリシ者ハ單ニ三名ニ過ギズ、腸結核早期ハ普通便祕、身體症狀及ビ消化障碍ヲ認メ陰性例ハ普通下痢症候ヲ呈セリ。

(四)腹痛ハ陽性患者七十一%ニ存在シ普通食後痙攣狀ニ表ハレ右下腹部ニ限局セルモノ多ク、且ツ腸內「ガス」甚シ、陰性例ニ於ケル該腹痛ハ劇シカラズ尙ホ屢〻盲腸部ニ局在セルヲ認ム、月餘ニ亙ル腹痛ハ陰性例ニ多ク一年以上ニ亙ルモノハ常ニ多ク陽性例ナリキ。

(五)下痢症狀ハ全例中四十七%ニ認メラレ、一日中時ヲ論ゼズ現ルレドモ屢〻朝食前ニ多ク、急性症狀ノ呈セル期間ノ平均便數ハ一日三乃至六ナリキ。腸出血ハ十例ニ認メタレドモ「ヘモロイド」ノ存否ヲ顧慮セヲバナラヌコトハ勿論ナリ。陰性例ノ下痢症狀ハ緩徐ニシテ且ツ短期ニ經過シ、月餘ニ亙ル下痢ハ多ク陽性例ニ認メラレタリ。

(六)嘔氣症狀ハ全例中六十六%ノ存在ヲ認メ普通食後ニシテ其ノ半數ハ嘔吐ヲ合併セリ。陰性例ニ於テハ大多數朝食前ニシテ劇シカラズ三ケ月以上乃至六ケ月ニ亙ル嘔氣症狀ハ陽性例ナリ。

(七)爾他一般消化器障碍ハ腸結核早期ニ現レ時ニソノ四十七%存在セリ。食思不振又屢〻認メリ。

(八)便祕ハ屢〻腸結核初期ニ於テ認メラレ其持續期間ハ陽性例竝ニ陰性例ニ於テモ同樣ニ長期ニ亙ルモノ多カリキ。

(九)便祕及ビ下痢ノ相互ニ現レシ者ハ其ノ十二%ニ存セルモ診斷上特別ナル意義ヲ有セザルガ如シ。　(佐々木抄)

○腸結核對照療法トシテノ紫外線療法ノ效果ニ就テ

R. J. Erickson.

Saranack Lake. 竝ニ Trudeau Sanatorium ニ於テ肺結核ヲ合併セル腸結核患者八十一例中、其ノ八十五%ハ紫外線療法ヲ施セル結果甚ダ奏效セルヲ認メタルモ一四・八%ハ不變及ビ奏效思ハシカラザリシ者ナリキ。是等ノ二十四・七%ハ種々自覺及他覺的症狀ハ去リ全ク恢復セリ、四十七%ハ甚ダ輕快セルモ一三・五%ハ何等ノ影響ヲ認メズ奏效疑ハシキ如ク效果ヲ齎シタル六十九例中五十四%ハ該療法ノ第一ケ月ノ末期ニ奏效シ七十二%ハ第二ケ月ノ末期、九十%ハ第三ケ月ノ後期ニ諸症狀ヲ除去セシメ得タリ。從ツテ治療ニヨル奏效ハ約三ケ月以內ニ於テ現ハル、ガ如シ。此ノ對症的療法及ビ快癒セル症例六十九例中八十五%ハ第四ケ月ニシテ五〇%ハ約一ケ半ニ亙リ十二%ハ第三ケ年乃至四ケ年ニ亙レル者アリ。

胸內苦悶、嘔氣、嘔吐等ノ諸症狀ハ最モ確實ニ奏效セルモ下痢症狀及ビ消化器障碍ハ依然奏效薄カリキ。

對照的療法ヲ施セル者ハ二十五%ニシテ其ノ過半數ハ六ケ月或ハ以上ノ療法ヲ持續シ處置後月餘ニシテ奏效セル例ハ八十五%ナリ。以上ノ事實ヨリ紫外線療法ハ腸結核諸症狀ニ向ツテハ一般的ニ特ニ效果ヲ奏シ價値アルモノナリト信ズ。ト結論セリ。　(佐々木抄)

○腸結核潰瘍治癒例鹽化「カルシーム」療法ニ就テ

E. H. Roberts.

腸結核潰瘍治癒症例ニ於テ該結核性腸炎ニ對シテ鹽化「カルシーム」療法ハ其ノ治癒機轉ニ向ツテ甚ダ價値アル事實ヲ實驗セリト前提シ當該例ノ鹽化「カルシーム」療法ハ始終一〇二週間ニ亙リ每週五%溶液ヲ各〻五瓩宛靜脈內注射ヲ施行セリ、此例ハ肺結核ニ罹患シ而モ殆ド死期ニ瀕セル患者ニシテ而シテ腸潰瘍ノ治癒セルモノ第二例デアリ鹽化「カルシーム」注射ハ每週ノ間隔ノ下ニ長期ニ亙リ持續セル者ナリ、結果或ハ鹽化「カルシーム」療法ニ依リテ腸管潰瘍

ノ治癒セルモノナリト云フ速斷ヲ聊カ早計ニ失スル禍ナキニ非ザルモ少クトモ好影響ヲ提供セルガ如キハ著者モ確ク信ズル所ナリト述ベタリ。（佐々木抄）

○尿中結核菌特異物質ノ排泄ニ就テ

L. Dienes and J. Freund,

結核患者ノ尿中特異物質ノ證明ハ單ニ病勢ヲ窺知スル事ニ重要ナルノミナラズ且ツ結核ノ免疫學的研究ニ向ツテ甚ダ興味アルモノナリト前提シ、活働性結核患者尿或ハ特殊物質ニ由ル特異療法中ノ患者尿中ニハ結核豚鼠ニ對シ「ツベルクリン」能力ヲ有スル物質ハ證明シ得ズ、然レドモ該物質ハ結核菌淨水浸出液ノ注射ニヨリテ斃死セル豚鼠ノ尿及ビ血清中ニ存在スルヲ認メタリ。

當該特異物質ハ且ツ菌ノ淨水浸出液ノ同量ヲ注射セル正常豚鼠ノ尿中ニハ多量ニ之ヲ證明シ得タリ。

以上ノ觀察竝ニ考察カラ感受セラレタル體內ノ抗元ノ運命ニ關シテハ恐ラク結核患者ノ排泄セル物質ハ「ツベルクリン」能力ヲ有シ而シテ患者ノ尿ニヨリ觀察セル皮膚反應ハ特殊反應ノ如ク解釋スル能ハズトハ信ジ得ズト。（佐々木抄）

○補體結合反應ノ抗元トシテ竝ニ「ツベルクリン」トシテノ死物抗酸性菌ノ淨水浸出液ノ能力ニ就テ

L. D. Scheff.

死物抗酸性菌ノ淨水浸出液ノ實驗ハ菌ノ培養ヲ濾過セルモノト菌ノ「ヱムルジオン」ニヨリテ觀察セル結果共ニ適合セル結果ヲ認メリ、補體結合反應ニ於テハ結核菌ノ浸出液ニヨリテハ效力ニ於テハ量的ニ甚ダ一致セルモ「ツベルクリン」能力上ニ於テハ大ナル相違ヲ認メタリ、死物抗酸性菌ハ然レドモ「ツベルクリン」能力ハ少量ハ存スル如シ、兩反應ニ於ケル能力ハ菌ノ蛋白體ニ關係シ而カモ恐ラクハ該物質ハ免疫學的ニ相異レル能力ヲ有スル蛋白體ニ關係スルモノナランカ。（佐々木抄）

○「ツベルクリン」皮膚反應ニヨル體質反應ノ臨牀的意義

Frederick Eberson.

診斷ヲ目的トセル「ツベルクリン」皮膚反應ニヨル體質反應ノ見地ヨリ研究シ四十一例ニ就テ次ノ結果ヲ得タリ。

凡テノ症例ハ既往症上感染ノ明瞭ナルモノニシテ理學的竝ニX線診斷上一定ノ結核症候ヲ認メタリ。

該例中九〇%ハ體質反應ハ「ツベルクリン」接種後現レ局所反應ハ常ニ劇シク現ハレタレドモ尙該反應ノ强弱トハ關係セザリキ病竈症狀ハ淋巴腺擴張、骨關節結核及ビ腸結核ヲ合併セル凡テノ例ニ於テ觀察セリ。

「レントゲン」診斷上中年期結核ニ際シテハ體質反應ハ明カニ意義アルモノニシテ是等壯年期結核患者ノ凡テハ肺門淋巴腺及ビ氣管枝淋巴腺ノ擴張ヲ認メタルモノハ三十二%ニ存在シ、而シテ六十四%ニ於テ淋巴腺ノ石灰變性アリ初期病竈ハ三十六%ニ存在セリ。

小兒及中年期ニ於テハ體質反應ハ臨牀上結核ヲ意味スルガ如ク症例ハ結核感染ノ既往ノ存スルモノニシテ且ツ種々ノ症狀竝ニ病性ハ結核ナリキ、中年期結核ノ診斷補助トシテ「ツベルクリン」反應ニヨル體質反應ノ出現及臨牀上ノ所見ハ臨牀的ニソノ病竈ガ活動性ナルヲ證明スルニ足ルモノナリト。

（佐々木抄）

○肺結核患者喀痰中ニ於ケル黴ニ就テ

Mary E. Lapham.

抄録ニ適セズ。

○結核菌ニヨル傳染ニ對スル白鼠ノ抵抗力ニ就テ

George G. Onstein and Maxim Steinbach.

結核菌ヲ以テ感染セル白鼠ハ何等ノ病的症狀ヲ示サヾリキ、白鼠ハ結核傳染ニ對シ抵抗力ノ强キ事ハ「モルモット」ノ傳染ニ對スル抵抗力ニ比較シテ問題トナラズ、斯樣ナ傳染鼠ノ剖檢ヲ試ムルニ肉眼的竝ニ顯微鏡的ニハ明瞭ナル結核ヲ見ズ然レドモ結核菌ハ或ハ糞便中ニ或ハ器官ノ組織學的剖檢ニ於テハ其ノ組織中ニ認ムルヲ得タリ、該組織ノ接種スルコトニヨリテ「モルモット」ニ對シ結核ヲ惹起セシメ得タリ。

此ノ菌ノ毒力ハ減ズルコトナク、感染白鼠ノ器官「エムルヂオン」ノ接種後ハ「モルモット」ニ於テハ廣範ナル結核傳染ヲ示セリ、感染白鼠ニ於テハ「ツベルクリン」感受性ハ無

ク腹腔内ニ注射セル「ツベルクリン」ノ大量ニモ抵抗セリ。感染白鼠ニ於テ結核菌ノ再接種ニ際シテ明カナルコッホノ現象ヲ認メズ、白鼠ニ對シ、結核菌「エムルヂオン」ノ接種後ハ菌ハ速カニ器官或ハ淋巴腺ヲ通ジテ分布スル、或例ニ於テハ菌ハ血流中ニ認メラレタリ。

補體結合性抗體ハ正常或ハ結核感染白鼠ノ血流中ニ存セリ、補體結合性抗體ハ正常白鼠及羊ニ於テ存シ尚ホ少量ハ山羊、牛猿ニ於テ認メラレ補體結合性抗體ノ認メラレザリシモノハ豚鼠犬竝ニ鳩ナリキ。

（佐々木抄）

Beiträge zur Klinik der Tuberkulose 61. Band. 6. Schlussheft. 1925

○實驗的結核菌感染ニヨル「モルモット」ノ組織反應（「モルモット」結核病理ニ關スル第一報）

W. Pagel.

著者ハ本問題ニ關スル實驗的研究ヲ（I）緒言、主文（A）總論（1）結核菌侵入ニヨル組織ノ一次的反應、（2）二次的反應。（B）各論卽チ個々臟器ノ反應（1）脾臟（2）肺（3）淋巴節（4）肝臟、（5）皮膚、（6）其ノ他ノ臟器、ナル項目ニヨリ發表シ（Ⅲ）結論トシテ（一）「モルモット」結核ノ組織學的像ヲ見ルニ組織死滅ハ組織新生ニ對比シテ退嬰的ナリ。唯例外トシテ初期感染ガ其ノ周圍ニ直接スル變化ヲ有スル場合ニハシカラズ。（二）普通ノシカモ何等影響ヲ蒙ラザル「モルモット」結核ノ經過中ニ於テノ全ク法外ナル補整的及ビ再生的變化ハ何カ加ヘラレタル治療方法カ又ハ病狀經過ニ加ハリシ他ノ影響カニ歸スベキ治癒過程ノ承認ニ向ヒテムシロ警戒ヲ與フルモノナリ。（三）臟器結核ハ「モルモット」ニ於テハ定ツテ一方ニテハ補整的過程ニ他方ニテハ血管閉鎖ト其ノ結果ニ依ルコトヲ示ス。（四）「モルモット」ノ結核性肺疾患トシテハ人間ノ細葉性結節性（acinös-nodös）結核ノ意味ニ於ケル增殖性病竈ガ一次的ニハ確カニ現レザルコトヲ固持セザル可ラズ。夫レト思ハシムル外見ヲ呈スル病竈形成モ詳細ナル檢索ニヨレバ其ノ起原ヲ肺氣胞腔内ニ有シテ血管ノ結締組織内ニ有セザルモノナルヲ認識セシム、如何ナル程度マデコノ病竈ヲ亦浸潤性ト稱スベキカハ尙研究ヲ要スル點ナリ。コノ病竈ノ發生ハ特ニ氣胞覆被細胞ノ增殖故ニ先ヅ主トシテ組織新生ニ依ルモノナリ。但シ「モルモット」肺ノ普通結核竈ヨリシテ其ノ永キ經過中ニハ

細葉性結節ニ比スベキ病竈ガ發達シウルコトハ明ラカナラザル可ラズ。(五)「モルモット」結核ノ組織像ヲ人類ノソレト比較スル時ニ共有性ガ少ナキヲ見ルハ其ノ型ガ相違セル點ヨリシテ充分ニ明ラカナル所タリ。トノベ最後ニコレ等ノ凡テノ事實ハ既ニノベシ如ク自然條件ノ下ニテオコル感染ト平行ヲウルコトハ勿論出來エザル所ノ「モルモット」ノ普通研究室内感染ニノミニ通用スルモノナリト云ヘリ。

(佐々抄)

○「モルモット」ノ肺ニ於ケル結核性初期感染ノ組織ニ關スル檢索(「モルモット」結核病理ニ關スル第二報)

W. Pagel.

著者ハ本題ニ於テモ前論文ト同樣數項ニ分チテ記述シ最後ニ「モルモット」ノ肺ニ於ケル結核性初期感染竈ノ組織學的性狀ヲ人類ノ夫レト比較シウルカ若シ爲シウルナラバ如何ナル程度マデ許サルヽカ。又更ニ進ミテアル特別ノ性狀的一致ヨリシテ Ghon 氏病竈ノ空氣的傳染ニヨル發生說ヲ確認シ得ルヤ否ヤノ問題ノ解決ニハ吾人ノ檢索ニヨレバ尙非常ノ注意ヲ要スルモノナリ。特ニ「モルモット」人類トノ初期感染竈ノ相近似點ハ組織學的所見ニアラハル、補整作用及ビ締結織覆被傾向ナリ。Ranke ガ人類初期感染竈ニ於テトナヘタル硬變性過敏性(sklerotisierende Allergie)ナル言葉ハ「モルモット」ノ夫レニモ直ニ移シ云フコトヲ得。「モルモット」肺ニ於テハ浸潤性實質性トシテハ他ニ大ナル確カナル結核竈ガ概シテ存在セザルガ故ニ末期ニ於テ乾酪變化ヲ伴フ實質性氣胞炎ハ吾人ノ觀察ニヨレバ浸潤性過程トシテ人類ノ夫レト一致スルノ證跡トナシウルモノナリ。血管系ニ發生シタル小病竈ハ先ヅ小結節形成トシテ血管結締織内ニ現ハル、ト云フコトハ多分事實ナルベシ。「モルモット」肺ニ吸入ニヨリテ惹起シタル陳舊病竈ノ索帶形成(Zonenbildung)ハ但シ一時的ニハ Ghon 氏竈トシテ知ラレオル構造ヲ思ハシム、シカシ決シテシカラザルナリ。石灰碎末、「リポイド」性及ビ「ズダン」陽性破片物ガ稀レナラズ乾酪性塊狀病竈内ニ帶狀ヲナシテ存在スルコトハ悉知ノコトタリ。コノ關係ハ又人類ノ初感染病竈群淋巴球ニ於テモ亦「モルモット」ノ夫レニ於テモ認メラル、所タリ。コレヲ畢竟スルニ「モルモット」肺ノ初期感染病竈群ノ全般的印象ト

且又夫レノ肉眼的所見トハ何レモ人類ノ夫レト全然對立スベキ性質ヲ有スルモノトナリ、ト結論シ更ニ吸入經路ニヨリテ惹起シタル「モルモット」肺ノ結核初期感染ノ八例ニ於テ及ビ血管内注射ニヨリ起リシ種々ノ時期ニ於ケル初期感染竈ニ於ケル組織學的檢索ノ示スコト次ノ如シトテ（一）「モルモット」ノ吸入ニ依リ發生シタル肺病竈ハ夫レヲ特殊初期感染ト記銘ス可キ構造ヲ有ス卽チコレハ早期ニ於テハ結締組織ニ於ケル過程ノ退嬰ト緩徐的發生氣胞炎及ビ末期ニ於テハ特有ノ索帶形成ヲ來スモノナリ。コノ索狀形成ハ多分初期結核性罹患組織ノ時々變化スル過敏性狀態ニ關係スルモノナルベシ、（二）血管内方法ニヨリテ惹起シタル肺ノ初感染竈トノ相違ハ外見上存在セズ。（三）尤モ肉眼的並ビニ又組織學的關係ガ（初期感染病叢群ニ浸潤性滲胞炎＋部局的全淋巴節乾酪變化）ナル點ニ於テ全般的ニ於テハ人類ノ夫レト完全ナル對立承認ヲ要スル點アランモ組織學的個々所見ニ於テハ人類ノ初感病竈トノ特別平行狀態ヲ認ムル能ハズ。特ニ「モルモット」初期感染ニ於テハ補整作用及ビ結締織覆被作用ノ傾向アルコトガ組織學的ニ確定セラルルコトニ於テ尙然リト總括シオレリ。

（佐々抄）

○結核ノ再感染ニ就テ

Fritz Hesse.

結核再感染ガ自體内ニ於テ初期感染竈ヨリシテ血管系又ハ淋巴管系ヲ介シ來ルカ或ハ又體外ヨリ呼吸器系統又ハ食道系統ヨリ初期感染ト同樣ニ起リ來ルカハ今日尙問題トシテ止マル。コノ事ニ關シテ著者ハ既ニ本誌ニ於テ（58. B. H.）

2.）再感染ハ體内發生ト共ニ體外感染モ同樣問題トセラルベキナリトノ所說ヲ發シタルガ、其ノ後ノ五百例ノ剖見ニヨリ尙茲ニ詳細ニ其ノ病歷ヲ記述セル一實驗例等ヨリシテ再ビ前記ト同一ノ所說ヲ保持スルヲ云ヒ、尙コノ問題ノ解結ニハ今後尙詳細ナル臨牀的檢査法ノ發達改良特ニ「レントゲン」技術ノ夫レト病理解剖學トノ密接ナル相提携ニ待ツノ外ナシト說キ次デ結核ハ多クノ例ニ於テ單ニ臟器疾患ニ止マラズ全身疾患ナリト見ナスヲ得可キ試驗成績ヲ得タリト附言セリ。

（佐々抄）

○肺尖ヘ結核菌ノ移着スルハ如何ナル理由ニ依ルカ

Max Jaeger.

著者ハ本問題ニ於テ其ノ實驗及ビ臨牀例等ヨリシテ種々ニ論述シ結論シテ(一)肺尖ハ胸廓上口ガ筋肉的ニモ亦骨骼的ニモ障壁ヲ缺ゲルヲ以テ吸氣ニ際シテハ內方ニ吸引セラレ呼氣ニ際シテハ受働的ニ膨脹セラル。(二)コノ膨脹ハ肺尖ガ上口ヲ出デオル程度ガ大ナルダケ尙又組織ガ一般ニ弛緩セルダケ高度ニ起ルモノナリ、(三)咳嗽衝動ノ際ノ强壓ニヨリテハコノ膨脹ハ肺尖ニ損傷ヲ來ス、(四)コノ損傷ガ直チニ又ハ繰リカヘサレオル時ニハ結核菌移著ノ豫約條件ヲ形ヅクルモノナリ。コレガ各人ニ存スル肺尖ノ有スル素質ヲ說明スル機械的動機ナリ。(五)全體組織中ニテ特ニ肺尖ガ先ヅ慢性結核ニ罹患シヤスキ事ハ前記咳嗽損傷ガ一般ニ擴ガルコト及ビ度々來ルコトニヨリテ說明シ得。ト云ヒ尙附言シテ曰ク吾人ガ若シコノ事實ヲ承認スレバ其ノ結果トシテ又初期感染ハ肺ニ於テ氣管枝系統ヨリ（經驗上肺中部又ハ下部ニ來ルヲ知ルガ）來ルモノナルガ慢性結核ハ初期感染竈ヨリ血行系又ハ淋巴系ニヨリテ傳播スルモノナルコトヲ承認セザル可ラザルニ至ルベシト。（佐々抄）

○ワイス氏「トンネル」匣(Kassett-eutunnel)ニヨル肺ノ「レントゲン」撮影

Oswald Geißler.

多クノ「レントゲン」學者ハ充分ナル肺ノ「レントゲン」診察ニ向ヒテハ透視ノ外ニ全肺撮影ト肺尖局部撮影トヲ要求スルモ其ノ多クノ場合ニ於テ要スル經費ニ關シテハ殆ンド顧慮スル處ナシ。而シテ吾人ハ詳細ナル肺尖ノ罹患云々ノ決定ニハ臨牀所見ニノミヨリテ「レントゲン」診斷トシテハ單ニ全部撮影ノミニ滿足セザル可ラザル場合少ナシトセズ。シカルニ吾人ハ少ナカラザル例ニ於テ決定的判斷ヲウルタメニハ肺尖ノ特殊X線撮影ヲナサヾル可ラズシタガヒテ第二原板ニ對スル費用ノ消費ヲ餘義ナクセラル、コトアリテ、タトヘ經濟的反對アリテモカヽル診斷不明ノ例ニ向ヒテハ全肺撮影ノ外ニ尙局所的肺尖撮影ノ行ハルベキヲ主張セザルヲ得ズ。Weiß ノ考ヘニヨル「トンネル」匣ヲ使用シテ同ジ乾板又ハ「フヒルム」ニ肺ノ全撮影ト局部肺尖撮影トヲナシ餘分ノ費用ヲハブカントスル方法ハ吾人ニハ前記經濟的困難ヲ除クベキ好都合ノ事ト思惟セラルトテ著者ハ其

ノ方法ヲ說明シコレニヨリテ撮影シタル二個ノ寫眞ヲ示シテ大ニコレヲ稱揚シヲレリ。

（佐々抄）

○人工氣胸ニ對スル補足手術

Kremer.

完全ナル人工氣胸ハ胸廓整形術ニ對比シテ種々ノ點ニ於テ大ニ優越セルハ疑ヒヲ容レザル處タリ、特ニ外科方面ヨリシテ云々セラル、人工氣胸ノ合併症特ニ混合傳染膿胸ハ多クハ常ニ適應ヲアヤマリシニ因スルモノニシテコレハ避ケウベキコトナリ。故ニ效果ナキ氣胸ヲシテ效果アラシメントスル方法ヲ求メントスルハ當然ノコトタリトテ著者ハコレニ關シテノ方法トシテ先ヅ胸膜內的及ビ胸膜外的施術ノ二大別アリト云ヒ更ニヨレヲ（A）胸膜內的施術トシテハ（一）索狀癒著ヲ Jacobaeus ノ法ニヨリテノ燒切及ビ開放的癒著切斷、（二）表面廣汎性癒著ノ指ニヨル剝離、（B）胸膜外的施術トシテハ（一）緊張ヲ緩徐スル切除、（二）上葉整形術、（三）橫隔膜神經抽出切除トニ細別シテ其ノ施術方法效果及ビ應用ニ就テ實驗的成績ヨリシテ批判ヲ下シ Jacobaeus ノ繫索燒切ト橫隔膜神經抽出切除トヲ以テ人工氣胸ノ效果ヲ補足スルニ最モ有效ニシテ且ツ危險ヲ伴ハザル操作ナリト斷ジヲレリ。

（佐々抄）

○更ニ肺結核ノ精密ナル生物學的診斷ニ就テ

E. Grafe.

血球沈降反應ハ非特異性ノモノナリトセラレテヨリ大ニ其ノ價値ヲ減ジタル故ニ著者ハ Reinwein ト協力シテ最少量ノ「ツベルクリン」ヲ注射スルコトニヨリコノ反應ニ變化ヲ起サシメ以テコレノ結核診斷ヘノ應用度ヲ高メント欲シ、其ノ實驗成績ヲ三ケ年前百例ニツキ更ニ續キテ五百六十二例ニ就テ發表シタルニコレガ追試ヲナシタル學者十六人ニアマリタリ、其ノ追試成績ヲ見ルニ著者等ト一致セルアルモ中ニハ反對アル故ニ其ノ反對者ニ向ヒテハ一言アラザル可ラズトテ其ノ陰性成績ノ由ツテ來リシ原因ハ試驗方法ノ誤謬ト實驗例ノ選擇ト判定ニ間違ヒヲナセルタメナリトシテ其レニ就テ說明シ更ニ一致成績ヲアゲヲル追試者ノ實驗例及ビ自己ノ成績ニ關シ詳說シ單ニ診斷ニノミナラズ「ツベルクリン」治療上ノ指示ヲモナスコトアルヲノベテコノ著者等ノ「ツベルクリン」併用ニヨル血球沈降反應試驗法ハ陽性成績モ陰性成績モ共ニ大價値ヲ有スルモノニシテ現代

混沌タル結核診斷問題ノ中ニ於テ最モ精密且ツ正確ナルモノトナスヲウト斷ゼリ。

（佐々抄）

○結核判定ノ補助方法トシテノ「ヘモグラム」(Haemogramm)（病氣判定ニ向ヒテ血液像比較檢査）

Engel, Ockel.

著者等ハ本問題ヲ、(I)血液學的緒言、(II)臨牀的緒言、(III)實驗及ビ(IV)實驗成績ノ批判ノ數項ニ分チ種々論述シテ曰ク。(一)結核患者ノ生物學的判定ニ向ツテノ「ヘモグラム」ノ實際的價値ヲ定ムベク結核治療所ノ患者五十例ニ就テ實驗シタリ、而モ其ノ實驗タル臨牀家ト血液學者トハ全ク其關係ノ立場ヨリ遂行シ相互ニ他方ノ得タル成績ガ自己ノ成績判定ニ何等ノ影響ヲ受ケザルヲ期シタリ。(二)血液學的評價ニ際シテハ Ockel ガ Schilling ノ方法ニヨリテ傳染病ノ際ニ白血球ガトル規則的變化ニ關シ實驗的ニ發見シタル方式ヲ基本トシテコレニ從ヒタリ。(三)兩方面ヨリ得ラレタル成績ヲ比較スレバ次ノ如シ(1)十四日間觀察シタル臨牀的判斷ト三回ノ塗抹標本ニ依ル血液學的考察トハ三十二例(七五%)ニ於テ相一致シ、兩者ガ一致セザリシ者ノ中ニテ「ヘモグラム」ノミガ正確ナリシハ六例(一三%)ニシテ、然ラザリシガ五例(一二%)ナリ。故ニコレヲ臨牀所見ト併セ考フル時ニハ「ヘモグラム」トソレトノ相違ハ特記ニ價セズト云ヒウベシ。(2)各四週後ノ臨牀的判定ト同時期ニ採リシ血液塗抹ニヨル血液學的判定トハ五十三回(六〇%)ニ於テ相一致シ一致セザリシ中十二回(一七%)ハ「ヘモグラム」ガ正シキ而シテ二十三回(二六%)ハ正シカラザル成績ヲ示シタリ。コノ中ニテ但シ最後ノ例ハ一時的治療結果ニヨリ破壞作用ガ更ニ進ミシタメカ又ハ有毒新陳代謝物質ノ流出カニヨリテ「ヘモグラム」ニ惡影響アリシタメカカル一致セザル結果ヲオコセシニハアラザルヤトノ疑ヒモオコルナリ。(四)故ニ「ヘモグラム」ハ肺結核ノ生物學的判定ニ向ヒ大ナル價値ヲ有シシカモ全生體ニ來ル過程ノ反作用ニ對スル微妙ナル客觀的所見ト見ナスコトヲウ。(五)「ヘモグラム」ノ有效ナル業績ヲナス基礎的條件トシテハ(a) Schilling ノ塗抹法及ビ計算法ヲヨク遵奉シ且ツコレニ精熟スルコト(b)長キ經驗練習ニヨリ得ラレタル絶對的正確ヲ以テ細胞核型ヲ判斷スルコト、(c)桿狀核ノ普通極限

價ヲ個人的ニ定ムルニハ健康者ニツキテノ充分多數ノ計算ト熟練者ノナシタルモノトヲ比較計算スルコト。(d)結核血液像ハ特殊ナルコトヲ顧慮シテ Schilling ノ四階級法ニヨリ個々「ヘモグラム」ヲ分類スルコト。(六)實地ニ向ヒ又結核患者ノ外來的判定ニ向ヒテハコノ技術的困難アルタメニ前記條件ヲ充スタメニハコレヲナス實地家ト特殊研究室トノ共同操作ガ問題トシテ顧慮中ニ入リ來ルモノナリ。

(佐々抄)

○ポンドルフ氏治療接種ニ就テ

Hans Koopmann.

最近四年間ニ於テ世人ノ注目ヲ集メタルハポンドルフ氏治療接種ニシテ其ノ贊成者ト反對者トガ相對峙セル樣ハ恰カモ往時「ツベルクリン」時代ニ於テ敵ト味方トガ囂々ノ議論ヲ戰ハセシト同樣ノ感アラシム。カク議論ノ岐ルヽ所以ハ畢竟コレガ非常ニ困難ナル問題々ルガ故ニ外ナラズ、卽チ接種技術接種物質及ビ被接種者ノ病的狀態等ガコレヲ施行スルニ當リ特別ノ意義ヲ有スルモノニシテ特ニ吾人ガ人力ニテハ測リ得ザル個人的體質ノ相違同ジク結核ト云ヒテモ夫レニ多種多型アルヲ思ハヾカク議論ノ一致セザルモ亦アヤシムニ足ラザル可シト前言シテ著者ハ本劑ヲ用ヒテ異常ノ好結果ヲ納メタル自己ノ實驗例ヨリシテ第一、解剖的見地ヨリ、第二、接種技術方面ヨリ、第三適應ニ關シテ種々論及シテ結論スルコト次ノ如シ。(一)接種物質Aヲ接種スレバ眞正皮膚結核發生シタメニ皮膚ノ生物學的免疫特殊作用ヲ自然ニ發生セシム。(二)被接種兒童ニ對シ恐レラルベキ缺點ハ「ツベルクリン」特殊成分ノ作用ト云フヨリ非特殊性成分ニヨルモノナリ。(三)接種技術ハ被接種者ニ對シ決定的ノ價値アリウルモノナリ。(四)肺結核ノ重症型ニモ亦ポンドルフ接種ヲナス可能性アルモノト思ハル。(五)骨及ビ關節結核ニ向ヒテハ本劑ハ外科的ニ必要トスル切斷ヲサヘ不必要タラシメウ。(六)尙又惡性新生物(子宮癌ノ例ニヨル)モコノ療法ニヨリ治療的影響ヲ得ルコトアリ。

(佐々抄)

○成人ニ於ケル「ヘモスターツス」(Haemostatus)(結核ノ血液檢査診斷)ニ就テ

Alexander, Tagunoff.

結核ノ診斷特ニ其ノ活動性認識及ビ豫後判定ハ今日尙解決

セラレヲラザル問題ナリ。今日マデ爲サレタル一般症狀及ビ物理的所見ニ依ル方法モ尙不充分ナルハ周知ノ事實タリ。コノ時ニ當リ世人ノ注目ヲ集メ來リシハコレヲ患者ノ血液檢査ニ待ツ方法ニシテ特ニ其ノ內ニテモ「ヘモスターツス」ト云ハル、患者血淸ノ「リパーゼ」價測定。血淸蛋白量測定及ビ血球沈降反應試驗ノ三ツヲ併セ施行スル方法ハ吾人ニ大ナル指示ヲ與フルモノナリト稱揚スル人アリ、特ニ小兒患者ニ應用シテ夫レノ診斷上ノミナラズ治療上ノ標準ヲ得ルニ價値ヲ認メシ實驗例アレドモ未ダ成人ニ應用シタル文獻ニ接セズトテ著者ハ成人二十五例ニ於テコレヲ實施シ其ノ得タル結果ヨリシテ。(一)「ヘモスターツス」ハ成人結核ノ早期診斷ニテハ問題トナスニ足ラズ、但シ舊「ツベルクリン」注射ヲ併用スル時ニハ注目ニ値スル結果ヲ示スラシキモコレニ向ヒテハ尙今後ノ檢索ヲ必要トス。(二)大半ノ例ニ於テハ成人血液診斷成績ハ其ノ罹患病型ト一致セズ。(三)「ヘモスターツス」ハ成人ニ於テハ結核治療ノ效力ヲ見ルニ對シテハ何等ノ目標ヲ與ヘズ。(四)前記ノ結果ヨリシテ成人結核ニ對シテハ「ヘモスターツス」ハ應用可能ヲ示サズ、コレ多分其ノ病氣ノ末期ニ於テハ病理的過程ガ小兒ノ夫レトハ異ナルタメナルベシ。(五)「ヘモスターツス」中ノ三反應ニ於テ沈降反應ガ最モ正確ナル所ヲ示ス。ト結論シ更ニ著者ノ二十五例ニ於テ陰性結果アリシト云ヘ若シコノ結果ヲタシカムルタメ他ノ方面ヨリシテ更ニ研究ヲナスアラバソハ非常ニ感謝ニ値スル問題ナリト追言セリ。

（佐々抄）

○全氣管枝ニ發生スル呼吸雜音ニ及ボス生理的聲門機能ノ影響ニ就テ

Alfons Winkler.

從來聲門ノ生理的作用ハ氣管及氣管枝音發生ニ重要ナル關係アルモノトセラレヲルモ之レヲ充分ニ說明シウル實驗的研究アルヲ知ラズ、故ニコレニ向ヒテノ研究ハ望マシキコトナリトテ、(一)聲門ヲ除キテモ普通呼吸音發生ニハ變化ナシ、コレ聲門ガコレニ關係ナキ證ナリ。(二)著明ナル氣管枝音ガ氣管切開後直ニ消失シタル實驗例アリ、聲門機能ガ消失スルカ又ハ非常ニ制限セラルヽ時ニハカヽル現象來ルヨリシテ氣管枝音發生ニハ聲門ハ必要ナル作用ヲ有スルモノニシテ聲門狹窄部ニ於テ發生スル特有ノ狹窄雜音ガ氣

管枝深部ニ傳リ胸壁ニハ氣管枝音トシテアラハル、ヲ知ル、等ノ實驗例事實ヨリシテ著者ハ「ゴム」ニテ全氣管枝模型ヲ作リコレニ依リ種々實驗的研究ヲナシ次ノ如キ結果ヲ得タリ、卽チ氣管枝系統ノ凡テノ分岐點ニ於テハ生理的聲門機能ニハ關係ナク呼吸氣流ニヨリ强キ音響性ノ主調呼吸音發生ス。故ニ生理的聲門機能ハ呼吸氣流ガ全氣管枝ヲ障碍ナク流通シウル時ニハ氣管枝系統ノ末梢部ニ發生スル主調呼吸音ノ性質特ニ吸氣時高調ニ對シテハ殆ンド何等ノ作用ヲ有セズ、コレニ反シテ若シ氣管枝ガ末梢ニ於テ卽チ小氣管枝又ハ氣胞組織ニ於テ侵サレテ呼吸ヨリ遮斷セラレヲル時ニハ大氣管枝部位ノ分岐點ニ於テオコル末梢性主調音ノ呼氣時高調ニ向ヒテハ缺グ可ラザル主因タルモノナリ。コレニヨリテ生理的聲門機能ハ各部位ノ末梢性主調呼吸音ノ性質ニ非常ナル影響ヲ及ボスモノナリト云フコトヲウ。且又呼吸氣流ガ障碍ナシニ流通シエザル如キ部位ニ於テハ其處ノ氣管枝分岐點ニ於ケル末梢性主調音ノ吸氣時高調ニハ同等ノ作用ヲ及ボサザルモ呼氣時ニハ非常ナル影響ヲ及ボスモノナリ。

（佐々抄）

○結核患者基礎物質代謝測定ニ關スル臨牀的經驗及考察

Arnold Kirch u. Karl Schuberth.

著者等ハ結核患者ノ新陳代謝ヲ研究シ通例酸化作用ノ增加アル等ノ事實ヲ見コレト種々病症トノ關係ヲ比較シ尙他學者ノコレニ關スル諸說ヲ併セ考察シテ結論セルコト次ノ如シ、卽チ結核患者ノ基礎物質代謝ハ熱トノ關係ヲ除ケバアル一定ノ係數ヲ示スモノナルコトヲ知ル、特ニ又硬變性纖維性結核ト纖維性乾酪性肺癆ナル二型ノ間ニ於テハ基礎物質代謝ガ異ナル點アルヲ示スガ如シ。而シテコノ兩型ノ間ニ見ラル、基礎物質代謝價ノ大ナル差タルヤ吾人ニハ單ニ該病型ノ相違スル結果ノミト見ナシ能ハズシテ各個體ノ素質的要素ガ其ノ依ツテ來ル原因ノ一部ヲナスモノト思ハシムルモノナリ。若シコノ考案ヲシテアヤマリナシトセバ體質ノ役目ナルコトニ關シタトヘ一般的ニハナシ得ザルトス、ルモ少ナクトモ個々臟器素質ノ範圍內ニ於テハ其ノ價値ヲ病理的方面ヨリシテ數學的ニ表示解釋スベキ一ツノ方法ガ存スルナルベシ。コノコトタルアル個々ノ臟器素質ニ關シテハタシカニ問題トナスニ足ルベシ。尙又治療上ニ於テモ

例ヘバ榮養問題、「プロテイン」療法卽チ廣義ノ意味ニ於ケル刺戟療法ニ關シテハアル一定ノ指示ヲ吾人ニ與フルモノト思惟セラルト。（佐々抄）

○結核股關節炎ノ類症鑑別

Kremer.

文獻ニハ Perther ノ幼年性骨軟骨炎ト結核性股關節炎トノ區別上ノ注目點ハ股關節炎ハ股關節ニ於ケル凡テノ運動ガ制限セラレヲルモ Perther 氏病ニテハ屈曲ノミハ殆ンド侵サレザル.ガゴク僅カニ制限セラル、ニ止マルトアリ、但シ吾人ガコノ症候ヲ以テ診斷ニ應用セントスル時ニハ充分ナル注意ヲ要スルモノナリトテ股關節ニ於テ其ノ運動全ク制限セラレヲリテ症候上全ク股關節炎ト決定セラレヲリシモ「レントゲン」像ニヨリテ定型的 Perther 氏病ナルコトガ判明セシ例ヲ詳述シテ識者ノ注意ヲ促シヲレリ。（佐々抄）

○Petruschky ノ「批判ノ批判」ナル論文ニ對スル答辯

H. Ulrici.

著者ハ前號ニ於ケル Petruschky ノ著者ニ對スル反駁ニ對シテ Petruschky ガ自己ノ製劑ニ關シテ又其ノ效果ニ就テ如何ナル說ヲナスモソハ彼レノ當然ノ權利ナルモ、其ノ說ヲナスニ假說ヲ以テ根據トナスハ許ス可ラザル點タリ。彼レノ云フ如ク其ノ製劑ガ有毒ナラズシテ只治療上ニノミ有效ナル成分ヲ有シ大量ヨリ小量ガ却ツテ作用大ナリト云フガ如キハ「ツベルクリン」作用說等ヨリ見レバ了解シガタキ節ニシテ若シコレガ實驗上、臨牀上等ヨリシテ證明セラレザル限リハ假說タルヲマヌカレズトテ Petruschky 及ビ其ノ贊成者等ノ實驗ニハ尙不充分ノ箇處少ナカラズトテ更ニ反對說ヲナセリ。

コレニ對シテ

Petruschky

氏ハ更ニ自己製劑ニツキ其ノ效果ヲ云々スルハ Ulrici ノ云フ如ク假說ヲ根據トスルニアラズ全ク貴キ經驗ヨリ出デシモノナリトテ數項ニ分チ其ノアヤマリナラザルヲ力說ス。

更ニ結論トシテ

Ulrici

著者ハ夫レニ對シ簡單ナガラ更ニ反對論ヲトナヘヲレリ。

（佐々抄）

結核專門外雜誌

○拮抗作用ニ就テ

Dr. Jgnaz Schiller

(Centralbl. f. Bact. oriz. Bd. 96. H. 1. 1925.)

グラム陽性菌ト陰性菌トノ間ニ結核作用ノアル事ハ既ニ論述シ盡シタリ此所ニ「ヘーフェ」ト結核菌トノ間ニ此ノ現象ノ惹起サレタ事ヲ證明シ得タ卽チ生活結核菌ガ「ヘーフェ」ニ依テ消化サレタ此ノ作用ハ「ヘーフェ」ノ非特異性能力ニ基キ一種ノ酵素的作用ニ依テ結核菌ノ消化サレル事常ニ一樣ニアラズ。

實驗第一

寒天ノ「ビールヘーフェ」培養ヲ取リ之ヲ、二%「サッカローゼ」乳劑二瓩中結核菌○・一瓩ヲ含有セシムル液ニ加ヘ四十八時間培養スルト「ヘーフェ」ガ良ク發育シ其ノ際屢〻酒精臭ヲ發ス而シテ發育シタ「ヘーフェ」ハ器底ニ沈降ス。

次ニ本液體中ニ存在シテアル結核菌ヲチールヂルゼン氏染色法デ染色シテ見ルニ淡ク顆粒狀ヲ呈スルモノモ甚グ稀レデ多クハ「メチーレンブラウ」デ青染セラレル菌デアル。

尙ホ氏ハグラム陽性陰性菌ハ「ヘーフェ」ニ依テ消化サレル斯ク菌ヲ溶解スル物質ハ濾過液中ニ移行スル事ハ次ノ實驗デ示ス。

實驗第二

二%ノ「サッカローゼ」溶液二・○瓩中ニ含有スル前記溶解物質ヲ磁製濾過器デ濾過シ其濾液二・○瓩中ニ若キ結核菌○・○一瓩ヲ乳劑トシテ加ヘルト二分間後ヨリ溶解現象ガ起リ始マリ三十分後ニハ全桿菌ガ顆粒狀トナル一乃至三時間後ニハ菌ハ溶解シ而シテ青色ニ染ル結核菌ノ變形移行體ガ認メナレルニ過ギナイ。

而シテ對照トシテ二%ノ「サッカローゼ」液ニ實驗ト均シキ結核菌竝ニ同分量ヲ加ヘシモノハ何等ノ作用ヲ蒙ラズ此ノ細菌溶解物質ハ易熱性デ五八乃至六八度（攝氏）デ破壞サレル結核菌溶解ハ活動性「ビールヘーフェ」ノ溶解性物質デアルト云フ。

（渡邊抄）

○喀痰中ノ結核菌及ビ抗酸性菌培養ノ前處置

Dr. J. Schiller

(ebd. H. 2)

氏ハ前ノ拮抗作用實驗中知リ得タル事實ヲ應用シテ喀痰中ノ結核菌證明法トナシ又之レニヨリテ容易ニ純粹培養ヲナシ得ルコトヲ述テ居ル卽チ喀出シタ喀痰全部ヲ用ヒ之ト同量ノ七五%「グリスリン」ヲ混ジ之レニ少量（多クトモ五%ヲ超エザル）ノ「グリコーゼ」ヲ加フ。

而シテ二十四時間攝氏三七度ニ置キ後塗抹標本ヲ作リチール子ールゼン氏液ニ染色ス三%鹽酸「アルコール」脫色「メチーレンブラウ」複染ヲ施ス。

此所ニ於テ速カニ發育スルトキハ直チニ認メ得ラレルガ他ノ細菌ニ依テ發育妨ゲラレ居ルカ又ハ徐々ニ發育スル場合ニハ一乃至二ケ月後ニ於テ發育ヲ證明スルノデアル。

氏ハ患者十例ニ本法ヲ施シテ可ナリ速カニ菌ヲ證明シ又タ他ノ菌ハ死ニテモ結核菌ハ一乃至二ケ月後ニ至ル迄發育ヲ續テ居ル故其所デ他ノ培養ニ移シ純粹培養ガ出來ルノデアル又タ非結核抗酸性菌ハ甚ダ速カニ發育ヲ證明シタリ氏ハ尙ホ第一期結核三八例ヲ實驗シタ處非結核抗酸性菌ガ中々多カリシ事ヲ述ベテ居ル卽チ結核菌ハ八%證明シ非結核抗酸性菌ハ二八%證明シタ次ニ四五例ノ健康者カラ二二%ノ非結核抗酸性菌ヲ證明シタト云ヘリ。

（渡邊抄）

○ベスレドカ氏結核反應

Dr. Wladimir Wariszezeu und Dr. Selma Jakubowitsch

(ebd. Bd. 95 H. 7/8.)

本方法ガ肺結核診斷トシテ佛國方面ノ學者ニ依テ稱用サレテ居ル、成績ノ惡キモノデモ七〇%良イ報告 Togunowa 氏ハ九一乃至一〇〇%ヲ示シテ居ル

氏ハ卵菌培養基ニ發育シタ結核菌ヲ〇・八五%食鹽水ニ入レ Boguet u. Negri 氏法ニ依テ「メチールアルコール、エキストラクト」トス而シテ Bordet-Wassermann 補體結合試驗方法ニ從テ實驗シタリ、結核血淸ハ可ナリ强ク自己溶血防止ヲ呈スル故 Calmette-Massol ノ法ヲ行ヘリ。

而シテ二〇〇例ヲ實驗シタ內一回五例ハ完全ニ臨牀的確實結核デアル、本反應ヲ實驗スルニ際シ常ニ之ト平行シテ且ツ對照ノ意味ヲ以テW氏黴毒反應ヲモ檢査シタリ其ノ結果

露國ニ於テハ可ナリ混合シテ存在スルモノガ多キ爲メ之ガ鑑別ニ甚ダ困難ヲ感ジタガ大體ニ於テ Turban 分類ニ從テ其ノ AI AII BI BII BIII ハ一九、二乃至六〇%陽性率デアツタト云フ。

（渡邊抄）

○結核菌ノ試驗管內發育ニ就テ
光線能力ノ影響問題

Prof. Dr. M. Friedeland

(ebd)

氏ハ本問題ニ就キテ種々ナル光線例令バ日光、電氣（ボーグン）ノ光弓（リヒト）「スペクトルム」ノ一部、人工的高度ノ日光線、「レントゲン、ラヂウム」光線ヲ應用シテ試驗管內ニ於ケル發育ニ如何ニ作用スルカヲ實驗シタル結果ハ日光線ハ強キ殺菌力ヲ證明シ人工的光線トシテノ電氣（ボーグン）ノ光弓（リヒト）ヤ水銀石英燈モ同樣ニ作用シタリ「レントゲン」光線ハ「ラヂウム」ノ β—γ 光線ト同樣ニ試驗管內菌發育ニ影響ヲ與ヘナイガ他ノ光線ハ何レモ結核菌發育ニ制限ヲ與ヘルノデアル。

（渡邊抄）

○結核補體結合試驗

Dr. Toyo Ogawa

(Zeitschr. f. Immunitatsforsch. Bd. 44. H. 2/3.)

氏ハ「バタ」、水、乳、中ノ抗酸性菌又ハ冷血動物結核菌「スメグマ」菌等ヲ「アセトン」、「トリクロールエチーレン」又ハ「テトラリン」デ處置シタ所ノ所謂脫脂菌ヲ用ヒテ補體結合試驗ヲナシタリ、血清ハ多數ノ家兎ヲ使用シ中型菌1/2 瓩ヲ皮下ニ注射シ人工的結核ヲナサシメ其ノ血清ヲ以テシタリ。

而シテ前記免疫元殊ニ「テトラリン」又ハ「トリクロール」「エチーレン」脫脂菌「レチチン」ヲ加ヘズ又ハ是レニ「レチチン」ヲ加ヘテ使用シ又タワッセルマン氏法ニ依ル結核免疫元ヲモ使用シタリ、氏ノ作リタル「テトラリン、トリクロールエチーレン」脫脂免疫元ハ家兎結核血清ト強ク反應ヲ呈シ而シテ「レチチン」ヲ加フル事ニ依リテ例外ナク陽性率ヲ呈ス、家兎結核感染後三乃至四週後ニ於テ該家兎血清中ニ免疫體ノ最高度ニ含有サレル事ヲ認メタリ又タ眞ノ結核菌ト非病原性抗酸性菌トノ間ニハ只ダ僅カ分量的ノ差アルニ過ギズ。

（渡邊抄）

○結核菌溶解作用

W. Blumenburg und W. Möhrke

(Zeitschr. f. Hygiene u. Infekt. Bd.;105. H. 1.)

「アルカリ」ガ最モ良ク結核菌ヲ溶解シ酸モ之ノ作用ヲ有スルガ完全ニアラズ純粹ノ酵素、臓器乳劑、又ハ動物「モルモット」ノ腹腔内デハ溶菌サレル事ガ證明出來ナイ濃イ乳酸ヤ「ペプシン」デ溶カサレルケレドモ餘程長キ日數ヲ要スルノデアル氏ハ尚ホ菌株ニ依リテ甚ダ差ガアリ殆ド凡テノ「リテラツール」ノ信用出來難イ事ヲ述テ居ル而シテ多數ノ「リテラツール」ヲ良ク集メテ居ルカラコンナ實驗ヲスル人ノ參考ニモト此所ニ「ページ」數ヲ掲テ置ク。(S186-204)

(渡邊抄)

○結核ノ血清學的診斷

Felix Klopstock.

D. m. W. Nr. 39. u. 40. 1925.

凝集反應、沈降反應、凝析反應、補體結合反應、過敏反應ニ關スル綜說ナリ。

(溝淵抄)

○ランゲル氏接種物質一四七號ヲ接種セル小兒ニ於ケル「ツベルクリン」感性ニ就テ

G. Fedders.

D. m. W. Nr. 40. 1925.

著者ハ生後間モナキ者ヨリ二歲ニ至ル小兒ニランゲル氏接種物質ヲ接種シテ次ノ如キ結論ヲナセリ。

一、六十二名ノ小兒ニランゲル氏接種物質一四七號ヲ種々ノ分量及ビ方法ヲ以テ接種シ、觀察ヲ持續シタルモノ、內三十八名ハ、期間ハ異ルモ多クハ二乃至三個月ノ前敏感期(一瓩舊「ツベルクリン」ノ皮內試驗ニ對シ)ノ後「ツベルクリン」感性ヲ得タリ。生後初一個月ニ接種セル乳兒モ亦「ツベルクリン」敏感トナリタリ、此ノ前敏感期ハ平均ヨリ著シク長カラズ。

二、接種後ノ障碍ハ、細菌蛋白ノ非經口的輸入ガ禁忌ナリシ例ヲ除ケル以外ニハ、出現セルヲ見ズ、美容的損傷モ起ラズ亦病理解剖的ニ肉眼的ニハ何等疑ハシキモノヲ見ズ。

三、前敏感期ノ長サハ使用量體重年齡ノ差ニヨルノミニ非ズシテ種々ナル不明ノ原因ニヨリ影響サル。

四、接種セル小兒ノ「ツベルクリン」感性ハ普通ノ試驗法ヲ行ヘル範圍ニテハ結核ニ感染セルモノヽ感性ト殆區別スルコトヲ得ズ。

五、敏感期ニ皮内再接種ヲナセバ比較的速カニ新竈生ズ、之レ減弱セルコッホ氏現象ト見做サルベキモノナリ、初接種ノ二次的反應ハ一般的變調ノ起レル後ノ局所的過敏反應ノ性質ヲ有ス。

六、皮内ニ注入セル異種蛋白ニ對スル敏感者ノ局所反應ハ非敏感者ノ其レヨリ強キコト結核感染者ニ於ケルト同樣ナリ。

七、「ツベルクリン」ノ皮下注射ニヨリ竈反應起ル（ランゲル氏ニ反ス）。

八、接種ニヨリ強毒感染ニ對スル抵抗力ヲ附與シ得ルヤ其程度ガ如何程ナリヤハ猶疑問ナルモ、接種ニヨリテ生ズル變調ハ生體ニ有利ナリト見做スコトヲ得、而シテ死菌及ビ弱力菌ノ皮内再接種ニヨル人體ノ實驗ヲ以テシテ該問題ニ益〻接近スルコトヲ得ベシ。

（溝淵抄）

○肺結核ニ於ケルマテフィ氏反應ノ價値ニ就テ

Salzmann

D. m. W. Nr. 42. 1925.

マテフィ氏ハ凝析ノ速度ヲ觀察シ病氣ノ輕重ハ凝析ノ速度ニ平行スト云ヘルモ、屢〻平行セザルコトモアリテマ氏ノ提唱セル如キ規則的ナルコトナク、殊ニ該反應ノ價値トシテ重要ナル點卽チ結核ノ活動性ナリヤ非活動性ナリヤノ判別ノ點ニ於テハ特別ナル價値ナシ。只氣胸ノ場合ニ滲出液アラバ凝析ハ著シク早期ニ出現スルコトハ注目スベキモノナリ。

（溝淵抄）

○結核患者盜汗ノ治療ニ就テ

Zwerg

D. m. W. Nr. 42. 1925.

著者ハ合法的ナル衞生的方法、水治療法或ハ「ヴェロナール」、「アトロピン」、「アガリチン」等ノ盜汗ニ對シテ有效ナラザル或ハ副作用ヲ起スコトアルヲ、述ベ、「ブユルゲル」會社ノ新藥「ザルフィザート」(Salvysat) ヲ多數患者ニ使用

シテ著效アリシコト及ビ樟腦ノ經口的使用ニ種々ノ副作用ヲ起ス故ニ好マシカラザルモ、「クノル」會社ノ Kampferglutinette ハ經口的ニ與ヘ、胃粘膜刺戟ヲ起コサズシテ著效ヲ收メ得ルコトヲ記載セリ。（溝淵抄）

○X線像ニ於ケル肺尖表出ノ改良法ニ就テ

R. Gassul

D. m. W. Nr. 43. 1925.

獨逸醫事週報一九二五年第十六號ニ於ケル著者ノ論文ニ對シ、マイニッケハ著者ノ方法ヲ以テセバ肺門陰影ガ肺尖ニ放射サレテ過誤ヲ起スト述ベタルヲ以テ、著者ハマイニッケノ反駁ノ價値ナキコトヲ論ゼルモノナリ。（溝淵抄）

○彈力纖維ノ染色法ニ就テ

E. A. Schubenko-Schubin

D. m. W. Nr. 44. 1925.

著者ハ彈力纖維ノ染色法トシテ先ヅ組織片ヲ

重「クロム」酸加里	五・〇
「フォルモール」	一〇・〇
氷醋酸	四・〇
二%硝酸	一〇〇・〇

シテ固定セシメ（非常ニ小ナル組織片ナラバ一乃至二時間）「パラフィン」包埋ヲ行ヒ、切片ノ「パラフィン」除去ノ後次ノ液ニテ一時間或ハ其レ以上染色ス。

一%「アルコール」（九六%）性「ヘマトキシリン」（陳舊ナルベカラズ）1

鹽酸	一・〇	2
局方一半「クロール」鐵液	四・〇	
蒸餾水	九五・〇	

右混合液ハ褐色ヲ帶ビタルモノニシテ帶綠色ナルベカラズ、次ニ鹽酸「アルコール」ニテ分別法ヲ行ヒ「ピクロフクシン」ニテ後染色ヲ行ヒ型ノ如ク「バルサム」ニテ包埋ス。成績ハ彈力纖維ハ黑染シ膠質樣纖維ハ赤染シ筋纖維ハ黃染シ核ノ「クロマチン」ハ黑染ス。（溝淵抄）